

## 第六章 躍進時代

戦後二十年、庭球部の復興と基礎造りに全力を傾注された諸先輩の努力は、いよいよ花開き実を結ぶ時代を迎える。田中正六監督が就任し農大魂を継承し来るべき躍進時代への尖兵となった昭和三十九年度の幹部は以下の通りである。

### 昭和三十九年

- 部長 金木良三 監督 田中正六 主将 石川清武  
 (農3) 副主将 井上健二(造3) 主務 大矢四十六(工3) 渉外主務 吉田征夫(化3) グラウンドマネージャー 川崎善久(化3) 幹事 今 昭夫(林3) 副幹事 梅津 誠(工3) 会計 古市光男(経3) 副会計 今井範夫(経3)

昭和四十年からは、戦後の庭球部にとって大いに活躍したいわゆる「躍進」の時代であった。

その幕明けは、何と言っても七部のドロ沼から這い上ったリーグ戦であろう。

昭和三十九年春の主将、主務会議で七部を新たに設置する事が決まり、この年のリーグ戦でベスト4になれず七部へ移行したのであった。

当時、関東学生庭球連盟加盟校は、五十六校で一部から六部までが、それぞれ四校ずつ、そして最下部の七部に残りの三十二校がひしめき合っている。七部を四つのブロックに分けて予選リーグを行い、ブロック優勝した四校が決勝リーグをしてその第一位が七部の優勝校となり六部の最下位と入替戦をし、それに勝ってはじめて六部に昇格出来るのである。

四月二日、いよいよその第一戦が始まった。「相手より一球多く返せ」という山崎 東コーチの教えが浸透し

「今年は絶対昇格する」という意気込みが部内に盛り上りを見せ、予選リーグを六戦全勝して決勝リーグに進出した。

決勝リーグでは対都立大戦に六対三、強敵対日本医科大戦は接戦の末これを五対四で破り、昨年秋季敗れている武蔵工大を九対〇と大勝し、こゝに七部の優勝が決定した。

雨で二日延びた六部、七部入替戦は、五月三十一日、六月一日の両日、横浜国立大学と対戦し、六対三で勝ち、ついにこゝに最下部を脱出した。それは長いトンネルでひと筋の光を見たようなもので躍進時代のスタートであった。

この年の主将石川清武は次のように書いている。

### 昭和三十九年度を振り返って

昭和41卒 石川清武

農大庭球部は昭和三十九年度リーグ戦に於て、待望久しく優勝し、入替戦にも勝って六部に昇格した。思えば、

歴史的にも長い苦難の時代から三部を目指す躍進の時代へのあけほのであった。

三十八年度のリーグ戦に於て七部が新設され農大庭球部は、七部に落ちた。その時から来年は「勝とう」と誓いあった。この覚悟をさらに固く決定づけたのが六月二十一日のO・B対現役対抗戦であった。これにはO・B会幹事の青木さん、四年生の宇野さんのご努力により、近年になく多数のO・Bの方々に参加された。特に九州からはるばる山崎東先輩がかけつけて下さり涙ながらに叱咤激励をされ、幹部は無論、部員全員が感激に打ち振えたものだった。

夏休みに入り、大矢と私はバイトを返上して合宿前の日々をコートに出て、炎天下のグラウンドを毎日二十周走り、気力と体力の充実を計ったこともなつかしく思い出される。

夏合宿は山中先輩のご指導を受けて会津苦松で行われた。日中は会津盆地の酷暑と戦い、夕方はヘトヘトになりながらも毎日死のロードランニングを続けた。どちらかと言えば走ることが好きな方だった私も、さすがに最

終日にはランニングを止めようかと思ひ、幹部に相談したところ、川崎が「一度決めた事だからやり通そう」と言うとも誰も反対者はなかつた。こういつた点で我々幹部はみな責任感が強く頑固者揃いであつたようである。

このフアイトが帰京してすぐ始つた理工系の個人戦で現われ、川崎が単で初の優勝を遂げた。だが、複は慶応の岡部・森岡が新人ながら断然強く、石川・梅川が準々決勝で、川崎・井上が準決勝で彼等に負けてしまつた。しかし、敗れはしたものの、石川・梅川が三一六・三一六と彼等から最も多くのゲームを取つたことから、二組の農大ペアが、ともにベスト四の実力を持つことが明らかになつた。

そして秋の理工系団体戦に於いて、Bブロックで東洋大に九対〇、日大に九対〇と楽勝した。そして前年度優勝の強敵慶応に五対四で辛勝しブロック優勝を遂げた。この試合、複は二勝したが、単は、四位、三位、二位、が負け、第一位同志の戦となつたが、川崎がファイナルセットの手に汗にぎる好試合の結果三谷選手を破つた。決勝リーグ初戦の武工大に複で二―一とリードをしなが

ら、単で一勝しか出来ず残念ながら二位に甘んじる結果となつてしまつた。

しかし、この敗戦は打倒武工大（関東大学七部リーグ）という新たなフアイトを生み、またちよつとした気のゆるみが勝負に大変な影響を及ぼすことを体験した。さらに、この試合で滝島が負けはしたものの武工大四年の神田選手（前年度ナンバーワン）に最後までくい下り善戦したことは、対外試合に強い彼の一面をのぞかせ、ダイナミックでスケールの大きな彼のテニスが頭角を表現してきたのは収穫であり、たのもしい限りであつた。

一方、女子も団体リーグ戦で初優勝を遂げた。

理工系リーグ終了後の練習は、関東大学リーグ戦を目標に一段ときびしさを増し、またランニングも毎日四十分位の時間を走つたであろうか。コートの打ち直しも自分達の手で行なつた。

春合宿は神奈川県平塚で行なつた。この合宿には四月に入学する農大一高出身の松田と岸田を連れて行き、思わぬプラスアルファを得ることになる。

合宿後の強化練習で総当りのシングルスで、松田が対

戦相手を次々と破りNo.1の川崎と互角の試合をしてしまつたのである。ちなみに部内のランクを示すと、川崎と松田が断然トップの実力を有し、次に井上、石川が続ぎ、近差で滝島、梅川であったが、滝島は川崎と互角の試合をする程になり、川崎、松田、滝島のエース三人がポイントゲッターになり、ダブルスは川崎・松田(井上)、石川・梅川で二本を確実にものにする必勝オーダーがここに出来あがつた。

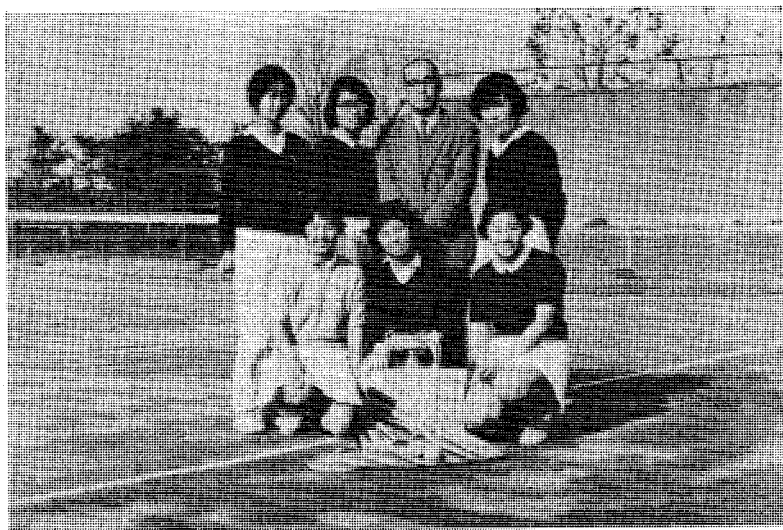
いよいよリーグ戦である。Aブロックに入り六試合を行った。強敵と思われた学芸大戦はベストオーダーで臨み九―〇で下し、まずブロック優勝を遂げた。予選リーグでは六―〇の試合がほとんどで、いかにていねいに、ミスを少なく戦つたかがうかがえた。

決勝リーグはさすがにどこも強く、最初に都立大と当つて六―三で勝つたが、二戦目の日医大が強敵であった。第三戦において秋の理工系で敗れた武工大に九―〇で勝ち、我々は啞然とさせられた。日医戦には大幅にオーダーを替え、背水の陣で臨んだ。復は予定通り二試合取つたものの単で六位石川がマッチポイントをにぎりながら、

四時間を越す試合の末逆転負けを喫し、五、四位が、堅実に勝ち勝敗は三位の川崎対赤川にかかった。一、二位は勝てる望みは薄いので文字どおり、この試合の勝者校が五―四で勝つことになる。第一セットは八―六で取り、第二セットを三―六で落した。ファイナルも川崎の健闘むなしく二―四とリードされ重苦しい空気がただよつた時、赤川がトレパンをぬぎ、ふくらはぎにエアースプレーをかけた。ケイレンがきたかどうかは分らなかつたが、この出来事を境に形勢が逆転した。川崎が四ゲームを連取しマッチポイントはバックボレーをあざやかに決めて奇跡の勝利をもたらした。ここによく七部優勝が決定したのである。そして、横国大との入替戦に六対三で勝ち、念願の六部昇格を果したのである。

思えば、長い戦いであり、ランニングとロブとねばりと、団結でもぎ取つた勝利であり、相手に負けなかつた優勝であつた。

七部優勝六部昇格の祝勝会はO・B会の主催により、先輩多数のご出席をいただき六月十六日銀座東映ビル「朝日」で盛大に開催された。祝勝会後、夜の皇居前広



女子理工系トーナメント優勝記念（昭. 40. 11）

場で、「大根おどり」をして、氣勢を上げたのも、思い出のひとつである。尚、この頃はほかにも次のような活動もした。

- 山手線一周（外周約四十km）ランニングを井上、今小西、岡本、藤本、若森ら有志で夜間に行い。約六時間を要した。尚これが厚木マラソンの発想の因となり、現在富士マラソンとして受け継がれている。
- 審判台を以前の木造のものから、野球場裏の鉄工所に格安で製作してもらい、いまだに利用されている。
- 担当今幹事

- コート打直しは部員だけで行い、コートの北側にU字溝を設置した。

- 新入生歓迎会を調布市の深大寺で行なった。現在はしんかん（新入部員歓迎会の略）でこのような催しは今も盛大に行なっている。

- 親睦会を向ヶ丘遊園で行った。

- 部内マラソンを挙行 優勝・準優勝者は小西・藤本。（農大——伊勢原間約四十六キロ）

- 卒業記念アルバムを作成し、一部を部室に残し現存

している。梅津、今、吉田、大矢が担当した。尚、この一年間の主な試合のスコアは次の通り。

三十九年十一月二十三日

関東理工科大学女子団体戦

対日本大学理工学部 於慶大コート

ダブルス

農大2—0日大

No. 1 ○菊地原・中平 (8—3) 相沢・原田

No. 2 ○捧・久保 (8—4) 関根・西村

シングルス

農大3—0日大

No. 1 ○菊地原 (8—5) 相沢

No. 2 ○永田 (8—3) 関根

No. 3 ○捧 (8—2) 西村

三十九年十一月二十三日

関東理工科系リーグ第二戦

対東京理科大学 於慶大コート

ダブルス

農大1—1東理大

No. 1 菊地原・中平 (2—8) 寺岡・藤田○

No. 2 ○捧・久保 (8—6) 千葉・恩田

シングルス

農大2—1東理大

No. 1 ○菊地原 (8—5) 滝本

No. 2 永田 (6—8) 寺岡○

No. 3 ○捧 (8—4) 藤田

捧が下位で確実にポイントをかせいだが永田が相手のエースにもう一步で及ばず試合終了後泣き出してしまった。そのくやしさが菊地原をハッスルさせ大熱戦の末理工系団体戦に初優勝成る。

リーグ戦

四十年四月十二日

関東大学庭球リーグ第七部Aブロック予選第六戦

対東京学芸大学 於学芸大コート

ダブルス

農大3—0学芸大

- No. 1 ○川崎・松田 (6-2 7-5) 吉田・土田
- No. 2 ○石川・梅川 (6-3 7-5) 森野・石井
- No. 3 ○岡本・滝島 (6-0 6-4) 新井・小池

シングルス

農大6-0学芸大

- No. 1 ○川崎 (6-3 6-1) 吉田
- No. 2 ○梅川 (7-5 5-7 6-4) 土田
- No. 3 ○松田 (6-1 6-3) 森野
- No. 4 ○滝島 (6-4 6-2) 新井
- No. 5 ○石川 (4-6 6-3 6-3) 石井
- No. 6 ○井上 (6-3 2-6 6-2) 藤井

両校共予選の中では一番強敵と思っていたので最後に  
 対戦出来るよう日程を組み、接戦を予想し気合を入  
 れて臨んだが九-〇で大勝し、六戦全勝でブロック優  
 勝を果たし決勝リーグへ

四十年四月二十七日

関東大学庭球リーグ第七部決勝リーグ第一戦

対都立大学 於農大コート

ダブルス

農大2-1都立大

- No. 1 ○井上・川崎 (6-2 6-3) 村田・横山
- No. 2 ○梅川・松田 (6-4 7-5) 安藤・白水
- No. 3 岡本 (4-6 6-2 4-6) 阿部○  
 滝島

シングルス

農大4-2都立大

- No. 1 ○川崎 (6-4 6-1) 安藤
- No. 2 ○梅川 (6-1 3-6 6-3) 阿部
- No. 3 ○松田 (6-3 6-4) 岩本
- No. 4 滝島 (6-3 1-6 6-8) 延命○
- No. 5 ○石川 (6-2 6-2) 矢崎
- No. 6 井上 (3-6 6-3 3-6) 白水○

相手校の下位の選手が強くポイントゲッターの滝島  
 が敗けたが、石川が快勝したのが大きくまず一勝

四十年五月一日

関東大学庭球リーグ第七部決勝リーグ第二戦

## 対日本医科大学 於農大コート

## ダブルス

農大2―1日医大

No. 1 岡本・滝島 (3―6) 青木・阿久津○

No. 2 石川・梅川 (6―1) 荒木・小林

No. 3 川崎・松田 (6―4) 6―3) 染谷・赤川

## シングルス

農大3―3日医大

No. 1 小西 (0―6) 阿久津○

No. 2 梅川 (5―7) 3―6) 青木○

No. 3 川崎 (8―6) 3―6) 6―4) 赤川

No. 4 松田 (6―3) 6―4) 染谷

No. 5 滝島 (6―3) 6―1) 荒木

No. 6 石川 (6―4) 6―8) 2―6) 江幔○

複はオーダーが当り二本取れたが、単で石川が敗け  
 背水のオーダーだったため川崎に勝負がかかり息詰ま  
 る大接戦の末、再逆転をした。このリーグ戦はこの一  
 戦が最も価値ある一勝だった。

四十年五月三日

## 関東大学庭球リーグ第七部決勝リーグ第三戦

## 対武蔵工業大学 於農大コート

## ダブルス

農大3―0武工大

No. 1 川崎・松田 (6―0) 6―4) 清水・梶塚

No. 2 石川・梅川 (6―0) 6―1) 中村・川崎

No. 3 岡本 (6―2) 5―7) 6―1) 鈴木  
渡辺

## シングルス

農大6―0武工大

No. 1 川崎 (6―1) 6―0) 鈴木

No. 2 梅川 (6―4) 4―6) 6―1) 川崎

No. 3 松田 (0―6) 6―1) 6―0) 清水

No. 4 井上 (6―2) 5―7) 7―5) 梶塚

No. 5 滝島 (6―0) 6―2) 木元

No. 6 石川 (6―4) 1―6) 6―4) 太田

秋の理工科系団体戦では四―五と逆転負けを喫し優  
 勝をさらわれたが、松田が入ったことにより圧倒的勝



利を得、ついに念願のリーグ戦優勝なる。

四十年五月三十一日六月一日

関東大学庭球リーグ第六部第七部入れ替え戦

対横浜国立大学 於横国大コート

ダブルス

農大2—1横国大

No. 1 川崎 (6—1) 6—4 1—6 石川  
松田 (6—0) 百合山

No. 2 梅川 (6—3) 6—3 6—1 堀  
石川 葉袋

No. 3 岡本 (5—7) 4—6 3—6 竹田  
滝島 (6—3) 和田○

シングルス

農大4—2横国大

No. 1 川崎 (6—1) 6—3 6—1 笹岡

No. 2 梅川 (2—6) 6—1 6—1 和田

No. 3 松田 (6—2) 6—0 8—6 飯田

No. 4 井上 (1—6) 4—6 1—6 竹田○

No. 5 滝島 (6—3) 2—6 6—2 8—6 石川

No. 6 石川 (6—4) 2—6 8—10 葉袋○  
(5—7)

複でガッチリリードしたため横国大はポイントゲッターを下げてきて梅川にポイントがかかり大ハッスルして勝ちとう／＼七部優勝六部復帰成る。

昭和四十年

このリーグ戦のあと幹部が交代し、山崎東先輩をコーチに迎え主将に滝島浩二(農3)、主務に小西猛夫(造3)農友会幹事兼理工系連盟委員長に岡本俊光(拓3)副幹事に大滝晴夫(畜2)会計に高橋靖脩(化3)関東学生連盟幹事に福岡三雄(農3)が選ばれた。理工系委員長と学連幹事は農大からはそれぞれ二人目ある。又、女子は、菊地原久子が主務として僅かな女子部員であったがそのまとも役をした。

夏合宿を会津若松で行い多数参加した。

八月一日から関東理工系大学庭球大会の個人戦シングルスで松田晃は、一年生でありながら、強豪を次々に倒し、ついに優勝を果たした。そしてその後三年間の大会でも優勝し四連覇という記録をうち立てた。この偉業に対

し、農大から時津風賞が授与され、後援の報知新聞社から大きなトロフィーが贈られた。四年間を制覇した例はあとにも先にもただ一人である。

秋のシーズンは理工系団体戦の予選リーグで優勝したが決勝で慶応に敗れ二位になった。又、定期戦、対抗戦もいくつかったが、六勝四敗で秋のシーズンを終えた。

四十一年一月には、大活躍した卒業生十一人の送別会を挙行し、社会人としての門出を全部員で祝った。

又、部内マラソンは、二回目を迎え今年から農大正門と厚木農場との間、約42kmの距離で行われ、これがいわゆる「厚木マラソン」として四十六年まで続いた。この年も昨年の覇者、小西が優勝して二連勝をとげた。

春のシーズンは静岡市駿府公園コートの合宿で始まり来るべきリーグ戦に備えた。

四月二・三の両日、横浜市立大学と第一戦を行い八対一で勝ち、幸先よいスタートだったが、第三戦で東京教育大学に四対五で敗れ残念乍ら連続優勝出来ず、次期幹部に引継いだ。

尚第二戦をする事になっていた静岡大学は関東学連か

ら脱退したため不戦勝となった。尚このリーグ戦は五セットマッチであった。この一年間の主な試合のスコアは次の通り。

四十年十一月三日

対東京理科大学女子対抗戦

ダブルス

農大2―0理大

No. 1 菊地原 (6―4 2―6 6―3) 藤田  
森田(茂)

No. 2 永田・捧 (6―2 7―5) 秋月・谷口

シングルス

農大1―2理大

No. 1 菊地原 (2―6 2―6) 寺岡○

No. 2 森田 (6―1 6―1) 藤田

No. 3 小原 (2―6 6―4 2―6) 千葉○

四十年十一月二十三日

対青山学院大学秋季定期戦

於農大コート

ダブルス

農大1—2青学大

No. 1	滝島	(3—6)	6—2	3—6	三谷 中島○
No. 2	梅川	(1—6)	6—3	1—6	丸野 松山○
No. 3	大滝	(5—7)	6—4	6—4	竹内 宮川

シングルス

農大1—4青学大

No. 1	滝島	(雨の為不戦)	丸野		
No. 2	梅川	(1—6)	2—6	中島○	
No. 3	松田	(6—2)	6—2	羽石	
No. 4	岡本	(6—2)	3—6	1—6	小泉○
No. 5	大滝	(4—6)	4—6	畔柳○	
No. 6	小西	(12—14)	3—6	齐藤○	

四十一年三月十三日

対静岡大学親善試合

於静大コート

ダブルス

農大2—1静大

No. 1	松田	(6—4)	7—9	6—4	佐藤 小野
-------	----	-------	-----	-----	----------

No. 2	大滝	(6—3)	5—7	2—6	村松 岡村○
-------	----	-------	-----	-----	-----------

No. 3	岡本	(6—1)	4—6	6—3	川上 鈴木
-------	----	-------	-----	-----	----------

シングルス

農大3—3静大

No. 1	松田	(6—2)	3—6	7—5	佐藤
No. 2	梅川	(4—6)	6—1	2—6	小野○
No. 3	滝島	(6—4)	3—6	3—6	村松○
No. 4	大滝	(6—2)	6—3	岡村	
No. 5	鈴木	(10—8)	3—6	3—6	鈴木○
No. 6	小西	(8—6)	6—3	赤川	

リーグ戦

四十一年四月十七日・十八日

関東大学庭球リーグ第六部第三戦

対教育大学

於教育大コート

ダブルス

農大1—2教育大

No. 1	○滝島	(6   6   4   0   4)	10   5   8   7	7   9	中野
No. 2	大滝	(6   3   4   6)	5   3   7   6	荒井	○
	後藤	(6   3   4   6)	5   3   7   6	高木	○
No. 3	岡本	(3   6   6   0   0   6   6)	0   0   6   6	安井	○
	梅川	(3   6   6   0   0   6   6)	0   0   6   6	加藤	○

## シングルス

## 農大3—3教育大

No. 1	岡本	(0   6   1   6   0   6)	0   6	中野	○	
No. 2	梅川	(0   6   2   6   2   6)	2   6	荒井	○	
No. 3	○松田	(6   4   10   8   6   2)	10   8	津守		
No. 4	○滝島	(7   4   5   6   6   10   8   0)	6   10   8   0	3   6	高木	
No. 5	○大滝	(4   6   6   3   6   6   1)	4   6   3   6	6   1	安井	
No. 6	小西	(2   6   4   6   1   6)	2   6	4   6	加藤	○

ダブルスを二本取られたのが痛く主将滝島がシングルスでマッチポイントを取られながら大逆転して勝ったが一步及ばず涙をのんだ。この敗戦のくやしさが五部・四部へ昇格するエネルギーになった。

## 四十一年の幹部は

主将 大滝晴夫(畜3) 副主将 鶴丸克郎(栄3)  
 主務 藤本水石(化3) 副主務 小原邦子(栄3) 幹事 吉村信行(造3) 副幹事 後藤和三(醸3) 会計 荒井規夫(経3) 副会計 松田 晃(造2) がそれぞれ担当した。

夏合宿を会津若松で行い、夏の個人戦に臨んだ。理工系個人戦のシングルスで二年生の松田が二連勝した。

理工系の団体戦は五勝一敗で優勝を逸した。この年、滝島・松田組のダブルスと松田のシングルスが関東学生選手権大会の予選を勝ち抜き、本大会に出場資格を得たが、これは久々の快挙であった。

四十二年は厚木マラソンで始動した。二連勝している小西は一年生新田に敗れ、この年から「三連覇は出来ず」「決って一年生に敗れる」というジンクスが生れた。この模様を新田良雄は随想で詳しく書いている。

卒業生送別会を下北沢駅前「小清水」で挙行した。

四十二年春は農大内合宿所で合宿をしてリーグ戦にのぞんだ。

第一戦の対横浜市立大学戦に六対三、第二戦の対千葉大学戦に八対一、第三戦の対明治学院大学戦に七対二で勝ち、六部の優勝を果たした。続いて行われた五部、六部入替戦を敵地上智大学へ乗り込んで対戦し、七対二で勝ち五部昇格が決定した。この時、コートサイドで「青山ほとり」を踊り勝利を味わった。

このリーグ戦を当時の主務、藤本水石は次のように書いている。

### 五部昇格のリーグ戦

昭・四十三卒 藤本水石

我々の時代の庭球部としての最大の目標は関東学生リーグ戦に勝つことでした。私が、新三年生になった春のリーグ戦の最大の強敵対教育大戦で敗れた時は大変なショックを受けました。リーグ戦の数ヶ月前に行なった秋の対抗戦で七対二という圧倒的スコアで教育大を下しリーグ戦は敗れるはずがないという自信があったからです。夕闇せまる教育大コートでのその一瞬から翌年のリーグ戦が始まりました。

リーグ戦後、指導的立場になった時まず考えたのは、なぜ教育大に敗れたかの反省でした。一番大きな原因は部内の「和」がなかったということでした。その結果個人が色々な考え方をし色々な行動をしているため、テニス技術の向上になってなかったこと、試合に臨んでの部員全員のもりあがりが出ていたことです。「和」のみだれる最大の原因であったコーチ制度の問題（コーチの方と部員との間のテニスについての考え方の相違）について部長先生を初めO・Bの方々にご相談しました。

この問題は、我々三年生にとっては大変な重荷になりましたが、皆様方の力添えにより解決をつけ部内のまとまりが強固になったと思います。

テニス技術の向上については、主将、大滝が提案した従来の守りのテニスの上に立つ攻撃のテニスを身につけることに重点をおきました。ダブルスで二ポイントを取るには、特に必要だと痛感したからです。サーブの強化、ネットプレーの練習、ダブルスでのレシーブを足もとへ返球することなどに力を入れて繰り返し繰り返し練習しました。テニスの練習が終ってから試合日を除いた

毎日二km〜二十kmのランニングを行ないました。五セットマッチを戦える体力と精神力の向上に役立ったと思います。

リーグ戦にさいして個人個人の違いはありましたが各学年別の特長を紹介しておきます。

一年生——大変愉快な集団、技術的にはまだ未熟だけれど団結力強固。試合では力強い脇役だが、その他の時はなぜかいつも目立つ主役。

二年生——個性の強いテニスをする実力集団。全員一年間でテニス技術は長足の進歩。リーグ戦出場者四名。

三年生——テニス気違い集団。テニスの素質はないけれども努力でカバー。リーグ戦出場者五名。

リーグ戦第一戦は横浜市立大学と行ないました。No.1の松田が御家族に御不幸があり出場出来ず大変心配しましたが全員の奮闘により快勝。第二戦千葉大学戦は、絶対の自信を持っていた複No.1大滝・松田組が大苦戦をしいられ二セットダウン後三セット連取し、フルセットの末、勝ちました。この試合はみんなの気持を引きしめる

うえに大変重要でした。第三戦明治学院大戦は、リーグ戦の中で一番強敵としていた相手でしたが、素晴らしい試合内容で快勝しました。リーグ戦三戦を通じて、ダブルスでいずれも三勝し翌日のシングルスを非常に優位に進められました。入替戦は、上智大学と行ないました。

最初の試合複No.2荒井・辻川組は、非常に緊張し、エラーが多く、又相手の選手は、荒々しいテニスで時おり襲う素晴らしい球が荒井・辻川組を悩ませました。各セット共接戦しながらついに自分達のペースをつかめずに敗れました。複No.3後藤・鈴木組は、両プレイヤーの持ち味をよく發揮し快勝、複No.1大滝・松田組も相手を問題とせず楽勝し初日を二対一としました。ダブルスで一ポイント落した為No.6に主将大滝を持って来て確実に一勝をねらいました。試合が始まりましたが、大滝は主将の責任感からか、フットワーク悪く無理な体勢から打つ為に球に力がなく又ミスが重なりました。大滝は、力強いフォアハンドからのネットプレーを得意としていましたが、強打したスマッシュがほとんどミスしてしまいました。そこでベースラインでの打ち合いにもっていくと、

相手の選手の変則的に入ってくる角度のついたフォアハンドに苦しめられました。意を決した大滝は、しつこくネットに出、スマッシュは強打せずに丹念に打つ様に心掛けるようにしました。この作戦が結果的に良く各セットともせり合いながらもストレートで勝利を得ました。

No.5 後藤は、気合十分、試合が始まるやサーブスからのネットプレーで決め波に乗りました。特に左腕から繰り出されるフラットとスライスのサーブスの当りはものすごく相手の選手は動けずたびたびボールがラインをよぎりました。結果は、自分のサーブスを一ゲームも落さず完勝しました。No.4 辻川はこの入替戦を決すべくテンポの早い好試合になりました。辻川は、リーグ戦前にあつた下部校練習会で、明治大学 No.1、関東学生単優勝者の三村さんに一セット四ゲーム取ったことが大きな自信を生んだ様でした。相手の選手は上智大のポイントゲッターでしたが、辻川のスピンのかかったサーブス、ネットでのボレーやスマッシュの前にはどうしようもない力の差がありました。上智大での全ての試合が終る頃には、夕闇がせまっていました。丁度一年前の教育大戦の夕闇

が思い出されます。この一年間あつという間に過ぎ去った気がしました。

この一年の主な試合のスコアは次の通り

四十一年六月十九日

対青山学院大学春季定期戦

於青学大コート

ダブルス

農大0—3青学大

No.1 滝島 (2—6 9—7 1—6) 小島○

No.2 大滝 (1—6 6—3 2—6) 中嶋○

No.3 荒井 (5—7 6—4 3—6) 畔柳○

シングルス

農大2—4青学大

No.1 ○松田 (7—5 6—4) 中嶋

No.2 大滝 (2—6 1—6) 羽石○

No.3 ○鈴木 (6—4 8—6) 杉山

No.4 後藤 (4—6 6—2 1—6) 小泉○

No.5 鶴丸 (1—6 7—9) 宮川○

No. 6 辻川 (3-6 5-7) 岡野○

四十一年十一月五日

対東京理科大学秋期定期戦(女子) 於農大コート

ダブルス

農大0-2 理科大

No. 1 森田(茂) (6-4 4-6 5-7) 中安○  
五十嵐

No. 2 武富 森田(順) (2-6 2-6) 秋月○  
谷口○

シングルス

農大1-2 理科大

No. 1○ 森田(茂) (6-1 6-4) 中安

No. 2 五十嵐 (0-6 3-6) 畑○

No. 3 武富 (1-6 0-6) 谷口○

リーグ戦

四十二年四月一・二日

関東大学庭球リーグ第六部第一戦

対横浜市立大学於横浜市大コート

ダブルス

農大3-0 横市大

No. 1○ 大丸 (6-2 6-0 6-2) 大西  
鶴丸

No. 2○ 後藤 (6-1 6-2 6-3) 佐藤  
鈴木

No. 3○ 荒井 (6-2 6-4 6-3) 粕谷  
辻川 草場

シングルス

農大3-3 横市大

No. 1 藤本 (11-9 6-5 7-6) 大西○

No. 2○ 鶴丸 (1-6 6-1 6-2) 6-4 稲本

No. 3 鈴木 (6-8 5-7 4-6) 佐藤○

No. 4 辻川 (3-6 3-6 2-6) 粕谷○

No. 5○ 大滝 (6-1 6-1 6-0) 草場

No. 6○ 後藤 (7-5 6-4 6-0) 山田

松田が父君の葬儀で欠場したため苦心のオーダーを組んだが鶴丸などよく幹部がカバーした。単一位の藤本は作戦参謀としての力量を発揮、チームをよくまとめると共に後輩に三部昇進の意気を伝えた。



四十二年四月八・九日

関東大学庭球リーグ第六部第二戦

対千葉大学 於農大コート

ダブルス

農大3-0千葉大

No. 1	○大滝	(2-1)	6-4	6-3	6-2	佐藤
No. 2	○後藤	(6-1)	6-3	6-4	6-4	杉山
No. 3	○荒井	(6-3)	6-0	9-7	6-4	泉屋
	辻川	(6-3)	6-0	9-7	6-4	渡辺
						松本
						大獄

シングル

農大5-1千葉大

No. 1	○松田	(7-5)	7-5	6-4	6-4	佐藤
No. 2	○鶴丸	(1-6)	1-6	2-6	6-3	杉山
No. 3	○鈴木	(6-2)	6-2	6-3	6-3	松本
No. 4	○辻川	(6-4)	6-2	6-3	6-3	池田
						田
No. 5	○大滝	(6-2)	6-3	6-1	6-1	伊藤
No. 6	○後藤	(8-6)	7-5	6-4	6-4	渡辺

四十二年四月十五・十六日

関東大学庭球リーグ第六部第三戦

対明治学院大学 於農大コート

ダブルス

農大3-0明学大

No. 1	○大滝	(6-3)	6-3	6-1	6-1	高橋
No. 2	○荒井	(6-0)	6-2	6-3	6-3	岡部
No. 3	○後藤	(6-4)	6-3	6-4	6-4	高橋
	鈴木	(6-4)	6-3	6-4	6-4	植野
						横山
						関根

シングル

農大4-2明学大

No. 1	○松田	(8-6)	6-2	6-2	6-2	高橋
No. 2	○鈴木	(6-0)	6-0	6-2	6-2	関根
No. 3	○鶴丸	(0-6)	3-6	0-6	0-6	岡部
No. 4	○辻川	(6-2)	6-2	6-2	6-2	植野
No. 5	○大滝	(6-4)	8-6	6-3	6-3	高橋
						(健)
No. 6	後藤	(6-3)	5-7	1-6	1-6	横山
						○

ダブルスで三勝出来たので楽勝であったが、単六位後藤-横山戦は接戦でリーグ戦中でも一、二を争う熱

戦であつた。

四十二年四月二十二・二十三日

関東大学庭球リーグ第五部第六部入れ替え戦

对上智大学 於上智大学コート

ダブルス

農大2-1上智大

No. 1 ○大滝 (6-4) 6-1 6-2) 橋本  
松田 深野

No. 2 荒井 (2-6) 6-3) 藤林  
辻川 (9-11) 7-9) 齊藤 ○

No. 3 ○後藤 (6-0) 6-2 6-4) 川原  
鈴木 シングルス 川村

農大5-1上智大

No. 1 ○松田 (6-2) 3-6 6-3 6-4) 深野

No. 2 岸田 (1-6) 3-6 2-6) 川原 ○

No. 3 ○鈴木 (6-2) 6-4 4-6) 橋本  
(6-8) 6-0

No. 4 ○辻川 (7-5) 6-2 6-3) 藤林

No. 5 ○後藤 (6-1) 6-2 7-5) 齊藤

No. 6 ○大滝 (6-4 8-6 7-5) 川村

単で大滝が大苦戦をしながらも勝ち後藤、辻川がバカ当りで一気に勝負をつけた。鈴木は二セットアップの時、辻川が勝ってしまったので気がゆるんだのか盛り返されたが最後は六-〇でしめた。

昭和四十二年

リーグ戦のあと幹部が交代し次の通り決定した。主将

松田晃 (造3) 副主将 鈴木武俊 (農3) 副主将 武

富映子 (造3) 主務 田中輝明 (化3) 幹事 岸田克

彦 (畜3) 会計 辻川賢也 (経3) 農友会常任委員、

松原三友 (醸3) 渉外主務 田村耕作 (工3)

夏の合宿は会津若松で行い、続いて開催された理工系個人戦でシングルスに松田、ダブルスに松田・辻川組がそれぞれ優勝した。

秋の理工系団体戦は、決勝リーグで慶応に敗れ、準優勝に甘んじた。

四十三年、厚木マラソンは新田が二連勝し、下北沢小清水で卒業生送別会を挙行した。

春のシーズンに当り静岡で合宿を行い、リーグ戦にの

ぞんだ。

関東学生庭球リーグ男子第五部は対東京工業大学に八対一、対武蔵大学に五対四、対東京教育大学に五対四とそれぞれ勝ち、対東京経済大学との入替戦では八対一で大勝し、こゝに四部昇格が決定した。これを祝つて、O・B会主催の祝勝会が盛大に行われ、多数の先輩諸氏が参加し、会場の糖業会館はにぎわった。

この年の四年生は在学中四年間で三階級昇格した事になり、躍進目覚しい頃であつた。

一方女子は、未だ部員が揃わないため、リーグ戦には不参加であつたが個人戦には参加した。

尚この一年間の主な試合のスコアは次の通り。

四十二年十月八日

対東京理科大学秋季定期戦女子 於農大コート

ダブルス

農大0—2理科大

No. 1 武富・森田(5—7 4—6) 中安・田巻○

No. 2 岡本(6—1 2—6 3—6) 小野都○  
佐京(6—1 2—6 3—6) 松本○

シングルス

農大2—1理科大

No. 1 武富(0—6 1—6) 中安○

No. 2 ○森田(3—6 6—3 6—4) 田巻

No. 3 ○岡本(6—2 6—1) 礎部

四十二年十二月十三日

対青山学院大学秋期對抗戦 於農大コート

ダブルス

農大1—2青学大

No. 1 ○松田・辻川(8—6 9—7) 小泉・宮川

No. 2 高田・立花(4—6 2—6) 鈴木・山梨○

No. 3 今関・星(6—8 0—6) 高橋・大村○

シングルス

農大1—5青学大

No. 1 松田(7—9 6—2 3—6) 小泉○

No. 2 ○鈴木(6—0 6—1) 岡野

No. 3 辻川(2—6 2—6) 宮川○

No. 4 高田(2—6 6—4 1—6) 高橋○

No. 5 今関 (2 | 6) 鈴木○  
 No. 6 大沢 (1 | 6) 2 | 6) 山梨○  
 リーグ戦

四十三年四月六・七日

関東大学庭球リーグ第五部第一週

対東京工業大学 於東工大コート

ダブルス

農大3 | 0 東工大

No. 1 ○ 辻川 (6 | 0) 6 | 0) 6 | 0) 村上  
 No. 2 ○ 星 (8 | 6) 6 | 2) 6 | 4) 大幡  
 小倉  
 No. 3 ○ 松田 (6 | 4) 7 | 5) 6 | 4) 吉田  
 天谷  
 シングルス

農大5 | 1 東工大

No. 1 ○ 松田 (6 | 0) 6 | 2) 6 | 4) 岡本  
 No. 2 ○ 鈴木 (6 | 2) 6 | 3) 6 | 0) 飯田  
 No. 3 今関 (4 | 6) 0 | 6) 0 | 6) 天谷○  
 No. 4 ○ 辻川 (6 | 4) 6 | 0) 6 | 4) 大幡

No. 5 ○ 大沢 (4 | 2) 4 | 6) 6 | 6) 6 | 4) 吉田  
 No. 6 ○ 高田 (3 | 6) 3 | 6) 6 | 2) 7 | 5) 村上

四十三年四月十三・十四日

関東大学庭球リーグ第五部第二週

対武蔵大学 於農大コート

ダブルス

農大2 | 1 武蔵大

No. 1 ○ 辻川 (6 | 0) 6 | 1) 6 | 2) 吉田  
 橋本  
 No. 2 立花 (4 | 6) 4 | 6) 7 | 9) 江口○  
 三上  
 No. 3 ○ 松田 (8 | 6) 6 | 2) 6 | 4) 鈴木  
 高木  
 シングルス

農大3 | 3 武蔵大

No. 1 ○ 松田 (6 | 3) 6 | 2) 6 | 3) 鈴木  
 No. 2 ○ 鈴木 (6 | 1) 6 | 0) 6 | 1) 西村  
 No. 3 柴口 (4 | 2) 4 | 6) 6 | 1) 5 | 7) 三上○

No. 4 松原 (3 | 6) 1 | 6 1 | 6 高木○

No. 5 ○辻川 (6 | 3) 5 | 7 (6 | 3) 江口

No. 6 高田 (3 | 6) 3 | 6 2 | 6 吉田○

複三位で松田がよく高田をカバーしボレーでロブを上げたり絶妙のプレーだった。単五位は相手チームのNo. 1 江口のネットダッシュを低いパスで防ぎ華麗なネットプレーで辻川が勝ち勝敗を分けた。

四十三年四月二十・二十一日

関東大学庭球リーグ第五部第三戦

対東京教育大学 於教育大コート

ダブルス

農大 2 | 1 教育大

No. 1 星 (4 | 6) 2 | 6 0 | 6 海野  
大沢 蝶間林○

No. 2 ○鈴木 (6 | 1) 6 | 1 6 | 2 浅井  
辻川 犬伏

No. 3 ○松田 (6 | 4) 6 | 4 6 | 4 河島  
高田 中村

シングルス

農大 3 | 3 教育大

No. 1 ○松田 (6 | 4) 6 | 1 6 | 4 海野

No. 2 ○鈴木 (6 | 0) 6 | 2 6 | 1 中村

No. 3 柴口 (5 | 7) 2 | 6 0 | 6 蝶間林○

No. 4 大沢 (2 | 6) 8 | 10 6 | 8 桜井○

No. 5 ○辻川 (5 | 7) 6 | 3 6 | 4 4 | 6 河島

No. 6 高田 (3 | 6) 3 | 6 2 | 6 浅井○

教育大の海野はインカレ・蝶間林は後にオールジャパンに出場、やはり松田の単複での活躍、辻川の単が勝負を決めた、辻川は河島の鋭いパツシングにてこずりながらも最後は出球を深く強打しやっとなしにした。

四十三年四月二十七日三十日

関東大学庭球リーグ第四部第五部入れ替え戦

対東京経済大学 於東経大コート

ダブルス

農大 3 | 0 東経大

No. 1	○辻川	(6   1   1)	6   2	6   0	○	片岡山
No. 2	○高田	(6   1   1)	7   5	6   4	○	坂内
No. 3	○星	(6   4   2)	3   6	6   3	○	佐藤
	大沢	(6   2   4)	6   6	6   3	○	大沢

シングルス

農大5—1東経大

No. 1	○松田	(8   6   6)	6   3	6   3	○	佐藤
No. 2	○鈴木	(6   1   1)	6   1	6   0	○	片山
No. 3	○柴口	(6   0   0)	6   2	4   6	○	坂内
No. 4	○大沢	(6   4   4)	6   3	6   0	○	円山
No. 5	○辻川	(6   3   3)	6   1	6   1	○	片岡
No. 6	高田	(1   6   6)	2   3	6   6	○	中本

鈴木は関東学生だったため、全部相手に敬遠され活躍の場がなかったがやはり松田・鈴木・辻川の三本柱は底力があつた。尚松田は四年間リーグ戦に出場した試合は全勝する快挙で躍進の原動力となつた。

主な個人戦々績 (四十二年)

○関東学生庭球トーナメント

単一回戦鈴木 (4 | 6 | 0 | 6) 三浦 (立大) ○

大滝 (5 | 2 | 6 | 6 | 0) 金泉 (慶大) ○

松田 (0 | 6 | 5 | 6 | 7 | 6 | 0 | 7) 設楽 (東外大) ○

複一回戦 大滝 (3 | 6 | 3 | 6) 山本 (法大) ○

後藤 (1 | 6 | 2 | 6) 元吉 (日大) ○

関東学生庭球選手権大会

単一回戦 ○松田 (7 | 4 | 6 | 5 | 6 | 2) 前田 (慶大) ○

○鈴木 (6 | 4 | 6 | 1) 増田 (成城大) ○

三回戦 松田 (8 | 6 | 1 | 10 | 3 | 6) 佐藤 (立大) ○

〃 鈴木 (1 | 6 | 1 | 6) 神和住 (法大) ○

複二回戦 ○松田 (6 | 4 | 6 | 4 | 6 | 4) 藤田 (東外大) ○

三回戦 松田 (2-1-6) 有馬 (立大) ○  
 辻川 (2-1-6) 清水 (明大) ○

尚、この年から部報「躍進」の巻末に掲載された前幹部の横顔を「前幹部のプロフィール」というコーナーでおもしろく紹介する。

### 前幹部のプロフィール

松田 晃 (造4)

音無しのサーブを最大の武器として、その破壊力はインカレに出場した実力通りである。そして、フォアは今まで多くの選手を苦しめてきたが、バックの素直さに比べると、どうしてあのような球が打てるか不思議である。しかし、テニス以外にもとりえはある。アサズメ(麻雀)と言われる室内ダブルスである。すなわち、夜から朝にかけてのスポーツなのだ、その為なのか暗い所を好む。ジレモグラとは彼のことである。

鈴木 武俊 (農4)

小さなオメメをもち、一見優しそうな顔、しかし、コ

ートに現われた彼からは、それらしきことは一つもうかがわれない。まるで闘志の固まりのような人である。長身を生かした、あの特有なフォアのグラウンドストロークに屈した選手は、数多くありましよう。

いつ頃からイタチと言われたか存じないが、今ではこの名で通っている。逃げるのが速いか、追うのが速いか解らない。女の子の心をつかむのもこのせいにしておきましよう。飲んだ時の彼の歌(浪曲子守唄)は、女子部員を失神させるのである。

辻川 賢也 (経4)

誰が名付けたかカワウソと呼ばれているようである。水中で獲物を追うようにコート狭しと白球を追う。そして、その目の輝きは、この世の者とは思われないほどである。しかし眼鏡の下にある眼は誰も知らない。

プレーが終れば、まさに別人、辻川マンションでは毎晩のようにパーティーが開かれる。そこで試合のオーダーが組まれる。四部昇格の原動力はこの会合(室内ダブルス)からである。

カワウソ—私たち科の哺乳類。頭がまるく形はいたちに似て色は黒い。変種として頭の平なものもある。別名、ゼツペキゴリラとも言われる。

## 松原 三友(醸4)

自称美男子とは、彼の事である。幹部を去つてから、一段と芽ばえて来たことはいうまでもない。ボールを追うことを他の何かに替えたようである。酒屋の息子であり、人を酔わせるのは彼の特技であるが、酒の方はあまりいけないようである。いろいろ忙がしい人ではあるが、テニスにかかる期待も大きかった。彼の隠れた存在が今のクラブにつながりましょう。通称、上州産ガマは日本独特のものであり、外国には見られない。スポーツ刈りは、一番お似合いのようである。

## 田中 輝明(化4)

彼を紹介するに当り、先ず、独特のボレーから説明しなくてはならない。柳にとびつかえるの如くボールを獲えるのである。そのためなのか誰もがコルゲンと呼んでるようである。いつも白衣を着ているのでヘソがあるのかないのか農大畜産学科の教授陣もまだ発表していない。一年間マネージャーの職務ご苦勞様でした。

## 岸 田 克彦(畜4)

減量に減量を重ね、今まさにヘビー級リミット一ぱいである。あの重いサーブ・スマッシュはまさにデ杯級。しかし、一年部員が大変である。コート上の凸凹は彼によ

るところが大きい。物理学者の測定によれば彼のスマッシュは、比べるものがないとのことである。コート上の保存を考える現役部員は、おてやわらかにやるよう望んでいるようである。何を隠そうペアーとは彼の事である。別名はいろいろあるようだが。

## 田村 耕作(工4)

豪徳寺の村から、自転車を通う彼、足の短いのをカバーしているのでしょうか、サドルはいっぱいにあげてある。一年の頃は、さぞ朝練習に励んだ事でしょう。昨今の会津合宿の黒い霧の張本人は彼である。二年生以上の部員なら誰でも知っている筈である。O・Bとの接触はこんな事はなかったんでしようか、疑がわしい。オケラ特有のものさしで、コート上の広さはかったことでしょう。来年もお願いしたい次第である。

## 武 富 映 子(造4)

あなたのつぶらな瞳、それはまさにマスクットだ。  
あなたの赤い頬、それはゴールデンデリシヤスだ。  
あなたの小さな唇、それはチェリーだ。

そして、気高い鼻は、まさにバナナのようにだ。みんなあわせるとフルーツポンチというより他にない。その瑞瑞しさは、コート上の水まきを不用とする程である。男子



部員が毎日コートに出てきたのもあなたのおかげである。

### 昭和四十三年

主将 高田憲一(経3) 副主将 立花民雄(農3)  
 副主将 今関脩三(畜3) 主務 木下勝朗(農3) 副  
 主務 星雅義(農3) 会計 小林正章(経3) 副会計  
 佐藤俊朗(農3) 幹事 新田良雄(林3) 副幹事 羽  
 田野隆司(農3) 渉外主務 片平成行(林3) 副渉外  
 主務 笹又元恒(化2) 連盟委員 三浦晴男(工2)  
 女子責任者 岡本まり子(短栄2) 女子副責任者 今  
 井すみ子(栄2)

夏合宿は、蓼科の横谷峡温泉で初めて行った。この年、はじめてオープンしたこのコートは長雨のせいもあって軟弱であったが帰る頃にはとてもよいコートになって、旅館の人から喜ばれた。そして三年間夏合宿がこゝで行われた。

理工系の個人戦シングルスで四年生の松田は今年も勝つてついに四連覇を達成した。

又、全日本学生選手権大会(インカレ)に単で松田、復で松田・辻川組が出場したがこれは戦後はじめてである。

理工系の団体戦は、加盟校が多くなったので、今年度から五段階に分け、一部四校、二部四校で五部まであり、加盟校は全部で二十校でわが部は一部になってリーグ戦が始まった。東工大と成蹊大には七対二、五対四でそれぞれ勝ったが慶応工学部に四対五で敗れ、一部の二位に終わった。

一方、女子の団体戦はトーナメント方式で行われ、第一回戦で理科大に敗れた、この年、女子部員が多くなつて、対抗戦が出来るようになり、対恵泉大学戦で貴重な一勝をあげた。

四十四年は、恒例の厚木マラソンで始まった。三年生新田は秘密練習を積んで三連覇を狙っていたが新人大川が優勝した。

卒業生送別会を挙行し、輝かしい実績を残したメンバーは社会へ巣立って行った。この横顔を第二部の随想で松原がおもしろく書いている。又、この年から部報を

「躍進」と命名、卒業生の寸評が巧みに表現され、今日まで受け継がれている。

春合宿は男子レギュラーが静岡市駿府公園コートで又準レギュラーと女子は農大コートで行ない春のシーズンに備えた。関東大学庭球リーグ男子第四部は四月五、六日から開始した。第一戦の学習院大学には二対七で負けた。続く第二戦の対東京外国語大学は、学生運動激化のため棄権したので不戦勝となった。第三戦の対一橋大学戦は六対三で勝ったが四部の二位にとどまった。

一方、女子は関東学生連盟のリーグ戦にはじめて出場、最下部の六部に属し試合はトーナメント方式で行われた。そして第一回戦は白百合女子大学と対戦し六対三で勝ち、初の一勝をあげた。しかし二回戦では対玉川大学戦で一対六で敗れた。この一年間の主な試合のスコアは次の通り

四十三年五月二十六日

対青山学院大学春季定期戦於青学大コート

ダブルス

農大1—2青学大

No. 1 立花 (4—6 6—1 3—6) 中沢  
林 ○

No. 2 辻川・鈴木 (6—1 11—9) 岩井・瀧

No. 3 星 大沢 (8—10 6—2 2—6) 鹿兒島  
上野 ○

シングルス

農大4—2青学大

No. 1 松田 (3—6 4—6) 鈴木 ○

No. 2 鈴木 (6—1 6—2) 鹿兒島

No. 3 辻川 (6—3 4—6 7—5) 林

No. 4 高田 (6—1 6—0) 笹山

No. 5 大沢 (5—7 6—2 6—1) 覚張

No. 6 柴口 (1—6 2—6) 中沢 ○

四年生の力を借りたものの久々に青学戦に勝つ

四十三年十一月二十四日

対成城大学對抗戦 於成城大コート3部

ダブルス

農大1—2成城大

No. 1	高田	(11-13)	6-4	2-6	神林○
No. 2	立花	(2-6)	6-3	5-7	増田○
No. 3	星	(6-1)	6-3		坂田○
No. 3	今関	(6-1)	6-3		宮地
	望月	(6-1)	6-3		保田

シングルス

農大3-2成城大

No. 1	大沢	(3-6)	1-6	神林○	
No. 2	柴口	(11-9)		坂田	
No. 3	星	(4-6)	1-6	根岸○	
No. 4	今関	(1-6)	8-6	6-1	増田
No. 5	高田	(6-0)	6-2	宮地	
No. 6	望月	(6-3)	4-6	7-5	保田

一年生望月のデビュー戦単複に連勝し大物の片りんをみせつける。

リーグ戦

四十四年四月五日・六日

関東大学庭球リーグ第四部第一戦

対学習院大学 於学習院コート

ダブルス

No. 1	立花	(1-6)	1-6	6-8	原田○
No. 2	望月	(4-6)	4-6	2-6	梅舎○
No. 3	星	(3-6)	2-6	6-3	鈴木○
No. 4	今関	(4-6)	4-6		熊沢○
No. 5	高田	(3-6)	6-4		井上
No. 6	柴口	(6-3)	6-4		山崎

シングルス

農大1-5学習院

No. 1	今関	(4-6)	2-6	2-6	鈴木○
No. 2	柴口	(4-6)	6-6	6-4	原田
No. 3	星	(7-5)	1-6	5-7	2-6
No. 4	望月	(0-6)	1-6	3-6	熊沢○
No. 5	高田	(5-7)	7-9	3-6	梅舎○
No. 6	大沢	(4-6)	5-7	4-6	山崎○

結果は二―七で負けはしたもののその中で三年生の柴口が関東学生の原田を破り、大沢もねばりのテニスで負けはしたものの、来年へ期待がもたれた。

関東大学庭球リーグ第四部第三戦

四十四年四月十九日・二十日

対一橋大学 於一橋大コート

ダブルス

農大2-1一橋大

No. 1 ○高田 (9 | 6 | 4 | 1 | 1 | 6 | 6 | 2 | 8 | 6 | 12) 永瀬山根

No. 2 大沢真梶 (6 | 2 | 8 | 10 | 4 | 6) 三浦重松 ○

No. 3 ○星柴口 (4 | 3 | 6 | 6 | 8 | 7 | 6 | 5 | 9 | 7) 三好矢定

シングルス

農大4-2一橋大

No. 1 柴口 (6 | 6 | 4 | 3 | 0 | 0 | 6 | 6 | 2 | 6) 三好 ○

No. 2 今関 (2 | 3 | 6 | 6 | 3 | 6 | 6 | 4) 山根 ○

No. 3 ○星 (7 | 9 | 6 | 1 | 6 | 1 | 6 | 2) 矢定

No. 4 ○望月 (6 | 1 | 6 | 4 | 2 | 6 | 6 | 2) 重松

No. 5 ○大沢 (6 | 1 | 7 | 5 | 6 | 1) 中山

No. 6 ○高田 (6 | 3 | 6 | 2 | 6 | 0) 北村  
秋には三-六で敗けた相手

四十四年三月二十五日

関東大学女子庭球リーグ第五部第一回戦

対白百合女子大学 於農大コート

ダブルス

農大1-1白百合

No. 1 ○今井・吉田 (6 | 2 | 6 | 1) 横内・竹内

No. 2 川野・大前 (5 | 7 | 4 | 6) 谷田・吉田 ○

シングルス

農大5-0白百合

No. 1 ○今井 (7 | 5 | 6 | 4) 横内

No. 2 ○川野 (6 | 4 | 6 | 8 | 6 | 2) 吉田

No. 3 ○吉田 (7 | 5 | 6 | 2) 谷

No. 4 ○大前 (6 | 4 | 7 | 9 | 6 | 3) 竹内

No. 5 ○佐京 (6 | 2 | 6 | 3) 志波

一回戦は勝ったが二回戦で玉川大学に敗け涙をのむ。

主な個人戦々績 (四十三年)

(四十三年七月二十一〜三十日)

○関東学生庭球トーナメント (四十三年五月)

単一回戦○松田 (6-3) 6-3 中野 (慶大)

辻川  $\begin{matrix} 2 & 6 & 3 \\ | & | & | \\ 6 & 1 & 6 \end{matrix}$

山梨 (青学大) ○

鈴木 (4-6) 4-6 白石 (慶大) ○

二回戦 松田 (5-7) 2-6 神和住 (法大) ○

複松田・辻川組、立花・柴口組が出場。

昭和四十三年度全日本学生庭球選手権大会

七月二十二〜二十九日於田園コート

単一回戦○松田 (6-4) 6-3 中田 (同大)

二回戦 松田 (1-6) 0-6 柳原 (慶大) ○

複一回戦  $\begin{matrix} \text{松田} & & \text{春日} \\ \text{辻川} & \begin{matrix} 2 & 0 & 6 \\ | & | & | \\ 6 & 6 & 3 \end{matrix} & \text{上崎} \\ & & \text{(甲南大)} \end{matrix}$  ○

尚慶大柳原は昨年 (四十二年) 2年時に単インカレ・

複オールジャパン資格で四十六年には全日本ランク十二

位の選手である。

○関東理工系硬式庭球大会

準決勝○松田  $\begin{matrix} 6 & 5 \\ | & | \\ 6 & 1 \\ | & | \\ 3 & 7 \end{matrix}$  大沢 (農大)

決勝○松田 (6-3) 6-4 田中 (成蹊大)

準決勝 後藤 (3-6) 6-4 村上 (東工大) ○  
鶴丸 小倉

○第二回関東学生新進庭球選手権大会

単五回戦勝者 鈴木、鶴丸、高田、大沢。

単六回戦○鈴木  $\begin{matrix} 6 & 2 \\ | & | \\ 6 & 4 \end{matrix}$  吉田 (武蔵大)

七回戦○鈴木 (6-4) 6-1 河北 (明大)

八回戦○鈴木 (6-4) 6-3 今野 (成蹊大)

準々決勝○鈴木 (6-0) 6-4 三栖 (慶大)

準決勝 鈴木 (6-8) 6-8 三宅 (明大) ○

複四回戦勝者 星・柴口組、小林・大川組。

五回戦○星 (6-4) 6-2 岡野 (明大)  
柴口 波多野

六回戦○星 (8-6) 6-2 高橋 (青学大)  
柴口 林

準々決勝 星 (1-6) 1-6 大森 (日大) ○  
柴口 藤井

## 前幹部のプロフィール

高田 憲一 (経4)

「ダバ」の愛称の彼、彼の祖先は馬であるか人間であるか疑われる程のLONGである。しかし前年度、総指揮官として部員を引っ張っていっただけの大物であり、うまさは抜群であった。ランニングは後足のけりが悪かった為か、「下タバタのアンヨ・ノロノロ」で余りお好きではなかった様である。彼は最近念願が叶って電車通学が出来、この世田谷でも空気が悪い為か、郊外に良い空気と良い草を求め下宿を変えられた様である。

立花 民雄 (農4)

「殿様」と言えば、良く太り、色が白いと決っていたが、最近の殿様は何も食っていないのか、骨が邪魔して太れないのか痩せこけ、色は庭球部一の黒さである。又目もかなり悪く、試合中落したコンタクトレンズの代りに、後輩のメガネのレンズをはずしそれを目に入れて続行した程である。ボレーのうまさは、関東学生になった実績通りであるが、厚木マラソンにおいてまだ一度も完走した事がないとは、庭球学科単位不足である。

今 関脩三 (畜4)

タバコ・パチンコ・麻雀その他遊ぶ事は全然しない。「清純」とは彼の為にある様な言葉である。彼のスライスのストロークはすごいものがあり、リーグ戦の対戦校は農大は印度のデ杯選手ムカージをスカウトしたと恐れをなした程である。又農大が晴天なのに、彼だけが傘とどろのついた長靴を履き登校した姿はみんなをよく笑わせたものである。

木 下 勝朗 (農4)

きっぷの良さで有名な木下勝朗氏。彼におごってもらった事のない者はないぐらいである。又彼程クラブの為に働いた男はいないだろう。雨・雪・槍が降ろうが他校との交渉、情報さぐりに働いた為か、やせているのも当然であろう。麻雀も大変好きでおられるが、勝った事がないのがにくい。「あげちゃうわノ」の心境であろう。

星 雅義 (農4)

ダブルスの星か、星のダブルスカと言われる程のテクニシャンで有り、リーグ戦で活躍された事は、御承知の通りである。しかし普断の彼の姿からは、関東学生・理工系(複)優勝したとは全然感じられないのである。や

はりテニスには顔や姿で上達するのでない事が彼によって実証された。最近警察官の息子である彼が、賭け麻雀を覚えられたそうである。

佐藤 俊朗(農4)

「佐藤ちゃん」でお馴染の彼、足の速さは定評が有り彼が先頭では三十人中二十九人までがおちる程である。しかし酒には余りお強くないようで少して「日本猿」のごとく真赤になられる。又彼の独特の髪型は全国理容協会推薦通り良くお似合であった。インケンなる金の取り立てご苦労様でした。

小林 正章(経4)

軟式流逆クロス打ちはマッハ一〇〇位の速さで、審判はぼかんと口を開いたままであり、当然相手は球と反対の方へ走る程のものすごさである。毎日大宮より五時間程かかって出て来た事が厚木マラソン二位の根源かも。卒業後もたまには、鶏二・三羽殺して持って来て欲しいところである。

新田 良雄(林4)

庭球部一の男良さ、又足の長いところなどは写真から抜け出たモデルの様である。足の速さは、アベベか新田

かと言われるごとく速く、厚木マラソンでは三連覇はならなかったが、その速さは年中雪の青森で育った故である。又独特のサーブ・ストロークは、どんなにか相手を悩ませた事だろう。卒業後は、先生になられるそうである。「さぞ日本も(以下省略)」

羽田野 隆司(農4)

彼こそ練習しているわりに色は白く腹が出ていたのが、誰れにも分らない謎であった。しかし、昨年女子責任者として活躍された事は、現在の女子部員の成長につながっている。又彼は良くアルコールが入ると「良かったですね、では又お会いしましょうね、さよなら、さよなら、さよなら。」のものまねを行ない、悪酔させた張本人であった。

片平 成行(林4)

農友会体育団体連合会副委員長・第七七回収穫祭体育祭委員長・林学一家組長・全日本O脚連会長・酒豪連理事・彼程印刷屋泣かせの男はない。名刺の白い部分がなくなる程である。名義だけでなく行動力は、実績通りである。新コート設計も彼のおかげである。又良く山に籠って、山の木を一本一本数えるのが彼の趣味かは誰れも知らない。色々御苦労様でした。

## 大島 肇(化4)

「豆博士」こと大島さん。いつも眠むたげな顔をしながらも、ボレーのうまさには評判通り。彼の口もとから発する「だじゃれ」は、御承知の様に痛快であきれる程である。又、彼は大変酒が強く、一升びんをいつきに飲みほす程である。ダニ、のみ、しらみをベットにしたい方は、彼に飼育方法を教えてもらって下さい。

## 三浦 晴 男(工4)

彼の顔をゆっくりごらんになればお分りの様に、彼程童顔が生まれて以来、今日まで抜けない人は史上稀であろう。彼はその特長を生かし、風呂代、電車賃、映画代その他を子供料金で済ましていたのである。四年間学連の仕事ありがとうございました。彼こそ農大庭球部の縁の下の力持ちである。又彼のギターは、歌と合わないところが大変に素晴らしいものであった。

## 昭和四十四年

リーグ戦のあと幹部が交代し次の通り決定した。

主将 大沢文雄(農3) 副主将 柴口誠(畜3) 今井すみ子(栄3) 主務 岸井敏男(畜3) 副主務 佐

京栄子(農3) 幹事 沢田斉(醸3) 会計 真梶展重(農3) 喜多良和(醸3)

夏合宿を長野県蓼科で行い、理工系の個人戦に参加した。成績は男子単で大沢が準優勝し、男子複は後藤・星組が優勝、柴口、望月組が準優勝した。又、女子は単で川野、複で今井、川野組が優勝し、吉田まり子・大前組が準優勝した。

十月二十六日から理工系の団体戦があり、男子は二勝一敗ながらポイントの差で優勝した。女子も決勝まで進出したが対理科大に二対三で惜敗した。

納会ではコート増設の披露式があったがこの事に関して片平成行は次のように書いている。

## コート増設

昭・45 林卒 片平成行

戦後のベビーブームが大学へ進み、昭四十一年ごろから学生教もふえ、庭球部も多くの部員を持つこととなる。

昭和四十三年は四年九名、三年十二名、二年九名それに二名の五年生がいて計三十二名、新入部員は、男子八名、



女子十三名である。合計五十三名それに農大一高の生徒を加えると、コート3面では、とても練習のできる状態ではない。人数を減らすか、コートをふやすかである。

幹部は練習時間帯を変えたり、いろいろと智慧をしばったが、結論は女子新入部員が多すぎる。小生は女子コートだったので、夏休みまでボールをあまり打たせず、トレーニングを主体に練習を組んだのである。

夏休みに入るころにはかなりがやめると思っていたのが、夏合宿には全員参加、コートも充分あり今まで打てなかったボールを充分打つことができ、ますますテニスのとりこになり、九月には全員が張り切ってコートに集合した。

コート増設の計画はここから始まったのである。隣のバレーコートをテニスコートに、金木部長を中心に大学側、高校と交渉、なかなか進みません。それに体育課には砂田教授（バレー協会理事）池上教授（ハンドボール協会理事）がおられ、それぞれに計画を持ってテニスコートには反対であった。

資金は部員のアルバイト、OBの寄附等あわせても目

標にはとてもいたらず、クラブハウス建設資金の流用でも足りない。大学から出させるわけにはゆかず、農友会から出させるしかない。小生、体連の役員として農友会に入り込み、わずかであるが資金をどうにか引き出すことができた。

コート建設は四十四年二月より二期に分けて大学側黙認で進められ、部員全員が参加して行われる。体育課島田教授は部員の行動を見て、コート建設に協力して下さる。

旧コート三面の打直しと平行して新コートの建設に入る。旧コート内の水道管の移動からである。もちろん学生だけで行われたが、斉藤節子（短大四十五年卒）のお宅（水道店）の皆様には大変お世話になった。本管はインチ、支管はミリとくいちがいがあり、もつとも苦勞した。

新旧コートの間のフェンスは、その工事費だけで全体予算を使い果たしてしまうほどであったが、宇野先輩のはからいで、資材一式と、技術者一人、施工は学生で行なうということで約半額で設置することができた。又学

生が良くやったとのことで、排水用のU字溝を業者より寄附いただき、それも学生が施工した。

バレーコートは南側がかなり高く、整地を完了したところで第一期工事を終えた。第二期工事は新幹部（主将大沢文雄）になり、四十四年秋には打直しを終了しテニスコートとなった。ポールは、まだ、バレー用にも使える伸びるポールであった。そしてテニスコート5面が完成した。

以上

四十五年一月恒例の厚木マラソンが行われ二年生の大川が二連勝した。

続いて卒業生送別会を下北沢駅前「太郎」で举行了。春合宿は、レギュラーと準レギュラーに分けて静岡市駿府公園コートと農大コートでそれぞれ行ないリーグ戦に備えた。

関東大学庭球リーグ男子第四部は四月四日から開始され、第一戦の対一橋大学戦に三対六で負け、第二戦の対武蔵大学戦は八対一で勝ったが、第三戦の成城大学戦では四対五で負け、第四部の三位に終わった。

一方女子は六部でトーナメント方式で行なわれ、ブロック決勝で共立女子大学に敗れたがベスト8に残り、来年昇格への足がかりをつくった。尚共立女子大はこのあと編成替もあり四部に昇格した。

尚、この一年間の主な試合のスコアは次の通り

四十四年十月二十六日

関東理工科リーグ戦第一戦

対成蹊大学工学部 於農大コート

ダブルス

農大3—0成蹊大

No.1 ○大沢・真梶 (6—0 6—3) 佐藤・根岸

No.2 ○沢田 (3—6 8—6 8—6) 田島  
喜多 小池

No.3 ○星・御手洗 (7—5 6—1) 田中・小津

シングルス

農大5—1成蹊大

No.1 ○大沢 (6—2 6—2) 田中

No.2 沢田 (6—2 4—6 3—6) 田島○

No.3 ○大川 (6—4 6—3) 小池

No. 4 ○御手洗 (4-6 7-5 7-5) 根岸

No. 5 ○星 (6-2 6-4) 追川

No. 6 ○真梶 (6-0 6-2) 奥保

四十四年十一月九日

関東理工科系庭球リーグ第一部第三戦

対慶応大学工学部 於農大コート

ダブルス

農大1-2 慶応大

No. 1 ○柴口・望月 (6-1 6-0) 長沢・鈴木

No. 2 大沢・真梶 (5-7 1-6) 内田・赤沼 ○

No. 3 渡辺(利) (1-6 6-3 1-6) 偶田 沖山 ○  
御手洗

シングルス

農大3-3 慶応大

No. 1 ○大沢 (7-5 6-4) 内田

No. 2 ○柴口 (6-0 6-1) 加納

No. 3 渡辺(利) (3-6 1-6) 偶田 ○

No. 4 望月 (6-0 2-6 1-6) 赤沼 ○

No. 5 田村 (2-6 4-6) 沖山 ○

No. 6 ○真梶 (6-1 6-4) 長沢

この結果一位農大二位慶応大三位理科大四位成蹊大となり尚農大は慶応大に敗れましたがポイント数で上回り初優勝することができた。

四十四年十一月十六日

対青山学院大学秋季定期戦 於農大コート

ダブルス

農大0-3 青学大

No. 1 大沢 真梶 (1-6 6-4 3-6) 高橋 瀧 ○

No. 2 柴口 望月 (6-4 4-6 0-6) 大村 岩井 ○

No. 3 渡辺(利) (6-4 3-6 4-6) 鈴木 池田 ○  
御手洗

シングルス

農大2-4 青学大

No. 1 ○大沢 (5-7 6-4 9-7) 高橋

No. 2 柴口 (2-6 2-6) 瀧 ○

No. 3 望月 (2-6) 0-6) 岩井○

No. 4 ○渡辺(利) (6-1) 6-4) 鈴木

No. 5 田村 (3-6) 1-6) 鈴木○

No. 6 真梶 (3-6) 2-6) 池田○

青学大のベストオーダー二部の実力をまざまざとみせつけられた。その中で一年の渡辺の健闘が光った。

四十四年六月十五日

対白百合女子大学対抗戦

於白百合大コート

ダブルス

農大1-2白百合大

No. 1 吉田 (6-2) 4-6) 3-6) 谷  
大前

No. 2 重松・須藤 (5-7) 5-7) 竹内・山平○

No. 3 ○大木・有田 (7-5) 7-5) 寺岡・寺倉

シングルス

農大5-1白百合大

No. 1 今井 (1-6) 2-6) 谷○

No. 2 ○佐京 (9-7) 6-3) 竹内

No. 3 ○川野 (6-3) 6-3) 寺岡

No. 4 ○佐藤 (7-5) 6-3) 飯田

No. 5 ○重松 (6-2) 6-4) 山平

No. 6 ○吉田 (6-2) 6-2) 寺倉

四十四年十一月九日 関東理工系女子第四戦

対日本大学理学部 於農大コート

ダブルス

農大2-0日大理

No. 1 ○吉田・大前 (6-3) 7-5) 藤倉・山崎

No. 2 ○佐京・佐藤 (6-0) 6-1) 一ノ瀬・杉田

シングルス

農大3-0日大理

No. 1 ○大前 (6-1) 6-4) 藤倉

No. 2 ○佐藤 (12-10) 4-6) 6-2) 山崎

No. 3 ○吉田 (6-0) 6-1) 武藤

圧倒的強さをもって一試合もおとさず優勝する。

四十四年十一月二十三日

関東理工科系女子決勝戦

対東京理科大学 於農大コート

ダブルス

農大1—1東理大

No. 1 ○吉田・大前 (6—3) 村越・鈴木

No. 2 今井・佐京 (0—6) 1—6) 三浦・千田 ○

シングルス

農大1—2東理大

No. 1 ○佐京 (6—0) 6—1) 村越

No. 2 吉田 (6—4) 4—6) 4—6) 千田 ○

No. 3 今井 (6—3) 4—6) 2—6) 三浦 ○

リーグ戦

四十五年四月十一・十二日

関東大学庭球リーグ男子第四部第二戦

対武蔵大学

ダブルス

農大8—1武蔵大学

No. 1 ○真梶 (6—4) 6—8) 6—8) 西村  
柴口 (1—6) 6—4) 三浦

No. 2 ○渡辺(利) (6—0) 6—2) 6—4) 漆原  
原(正)

No. 3 ○望月 (7—5) 6—2) 菊池  
御手洗 (7—5) 6—0) 伊藤

シングルス

No. 1 ○原(正) (6—3) 9—7) 6—4) 西村

No. 2 ○柴口 (6—3) 6—3) 6—1) 漆原

No. 3 ○渡辺(利) (6—2) 6—0) 6—0) 伊藤

No. 4 ○望月 (6—0) 6—1) 6—3) 三浦

No. 5 ○大沢 (6—3) 5—7) 6—2) 菊池  
(1—6) 6—3)

No. 6 田村 (5—7) 5—7) 2—6) 星野 ○

主な個人戦々績 (四十四年)

○関東学生庭球トーナメント

単一回戦 ○後藤 (7—5) 6—3) 三浦 (一橋大)

出場者大沢、望月

二回戦 後藤 (0—6) 0—6) 岡田 (慶大)

複一回戦 ○大沢 (6—8) 6—10) 亀岡 (東大)  
真梶 (6—3) 3—3)

出場者、星・柴口組

二回戦 大沢 真梶 (0-6) 2-6 神和住 (法大) ○  
理工系個人戦 平井

復準決勝 後藤 (5-7) 村上 (東工大)  
(七回戦) 星 (6-3) 小倉 (東工大)

○柴口 (6-1) 6-2 内藤 (東海大)  
望月 大堀

決勝 後藤 (6-4) 2-6 6-2 柴口  
星 望月

尚、シングルスは大沢が準優勝

女子複 今井 (6-2) 6-2 重松 (農大)  
川野 須藤

○吉田 (6-0) 6-2 久保 (北里大)  
大前 宇田川

決勝 今井 (6-4) 4-6 6-1 吉田  
川野 大前

尚シングルスは川野が準優勝。

○第三回関東学生新進庭球選手権大会

単六回戦勝者、柴口、後藤。敗者渡辺 (利)

七回戦 柴口 (6-2) 6-1 大村 (青学大)

○後藤 (7-5) 川上 (東大)  
(6-2) (2-7)

八回戦 柴口 (4-6) 3-6 稲津 (日大) ○

後藤 (2-6) 3-6 小杉 (法大) ○

複六回戦 柴口 (7-5) 6-2 永沼 (東経大)  
望月 足立

七回戦 柴口 (4-6) 4-6 小川 (早大) ○  
望月 武藤

女子単

六回戦 川野 (6-1) 6-1 天野 (理科大)

吉田 (3-6) 3-6 岩倉 (上智大) ○

七回戦 川野 (1-6) 0-6 服部 (独協大) ○

複四回戦 今井 (6-1) 6-0 倉橋 (聖心女大)  
川野 内田

四回戦進出者大前・吉田組、佐京・重松組

五回戦 今井 (4-6) 平野 (学習大) ○  
川野 (7-9) 0-6

○夏季関東学生庭球選手権

出場者

男子単 大沢、柴口、望月、渡辺 (利)

複 大沢・真梶組、柴口・望月組

女子複 今井・川野組

## 前幹部のプロフィール

大沢 文雄(農4)

「なにー、なんやて、なにいうてんねん。」ギロツと、ひとにらみ、一同シーンとしたものでございました。「ええやんかー、飲みねえ、食いねえ、なんでもいいいや。」

街の灯りが、とてもきれいな、ヨコハマー

男心をせつなく歌う、あの声、あの歌、あの叫び、今もしつこく、我らの耳の奥に……！「ソラ来い！ソラ来いヨ！」と延々五時間ねばりねばって、勝利へとナイス根性ゴクロウサン

岸 井 敏 男(畜4)

黒ヒョウ あのするどいまなざし。整った鼻、キリッとした口もと、なんともニヒルな臭いをただよわせて、コートを部員をみつめ、パチンコ、麻雀と忙がしい体の人でした。

喜 多 良 和(醸4)

どうゆうわけか？ どう言うわけか？ その落ち着

き！ 気はやさしくて、力持！

それが、春合宿の成功をもたらしたのでございます。しかし蒲団ムシ禁止令を出して、進んで破るとはニクイーツネッチャオー

沢 田 斉(醸4)

温和な人！ひと皮むけば思わずプー！  
オタマジヤクシはかえるの子……あの踊り、あのGO GO とにかく笑いがいっぱい、マジメでも笑わせる要素がありすぎるんですヨ！

柴 口 誠(畜4)

小説、片手に、授業へ、愛とは？ テニスとは？ 常に前むきピーターばりのそのマスク、初恋のミヨチャンを歌う、その目はうるみ、ボールを追う時、その目は大きく輝いたものでございました。

真 棍 展 重(農4)

貴様と俺とは、同期のサクラ……  
男に生き男に死ぬ！ そうでございます。後輩の為ならと、質屋通いなんのその！ 今度は、その熱意をもって、すばらしい恋人を射とめて下さい。

菅沼廣志(林4)

努力の人、流れるようなフォーム、研究心！ すべて  
の面で、頭が下がる思いです。また、また、くだけたお  
話しもお好きで合宿の時、蒲団の下で、おとなしく鼻血  
なんぞお出しになりましたエ。

菅沼さんから皆様へ『自分に勝て』

今井 すみ子(栄4)

おとぼけの今井か？ 今井のおとぼけか？ をモット  
ーに、名実ともにグングン力をつけ、今井流バックを武  
器に、ダブルス理工系優勝、農大初の女子関東学生にな  
ったのでございます。四年生になるやいなや急にお美し  
くなり。忙がしソウ？

佐京 栄子(農4)

この人がしゃべると、あたりはこの人だけがいる見た  
い、アラ！ ソウ！ ソウナの！ とやや上向きかげん  
に四五度、流すあたり眼で、皆をうるたえさせ、コート  
せましと右へ左と、あの魔球に皆、いじめられたもので  
ございました。

## 昭和四十五年

リーグ戦のあと幹部交代が行なわれ、次のように決定

した。

主将 望月一宜(化3) グラウンド主務 秋山宣久

(農3) 主務 田村孝二(化3) 幹事 中川克仁(化3)

渉外主務 藤沼秀夫(農3) 会計 大川松寿(経3)

書記 川野元子(栄3) 学連 鈴木利将(農2) 副主

将 大前千寿子(造3) 副主務 横田克己(畜2) 副

主務 佐藤英子(造3) 副幹事 吉田まり子(造3)

副渉外主務 有田公子(栄3) 副会計 遠藤陽子(栄

3) 副会計 重松美知子(栄3)

夏合宿は三度蓼科で行ったが次の年から山中湖へ移る  
ことになる。

この頃は個人戦でも活躍し、特に原正幸、望月、渡辺  
利行らが各大会に勝ち残った。理工系個人戦の複で、望  
月・御手洗組が優勝、全日本学生選手権大会に原 正幸、  
渡辺利行が出場した。(スコアはあとに示す)

秋の理工系団体戦は、十月二十五日から行われ、東海  
大学を九対〇、慶応大学工学部を七対二、東京理科大学  
を九対〇で連破し優勝した。しかし青山学院大学との定  
期戦はやはり勝てず涙をのんだ。



一方女子は来年春のリーグ戦をめざし、多くの対抗戦を行い八戦全勝と次第に実力をつけていった。又、個人戦でも関東学生新進戦で大前、吉田、川野が勝ち進んだ。四十六年一月、恒例の厚木マラソンが行われた。二連勝した大川は又しても一年生の中川(正)に敗れた。この年で交通事情が悪くなつたのを理由に七回(うち一回は伊勢原)続いた厚木マラソンは中止され、舞台は富士山麓へと移った。

送別会は一月二十四日、下北沢「小清水」で挙行した。春合宿は男子は名古屋の森林公園コートで、女子は千葉県東大検見川総合運動場で行なつた。

関東大学庭球リーグ男子第四部は、四月三、四日から毎土、日に行われた。第一戦の対成城大学戦は六対三、第二戦の対学習院大学戦は三対六、第三戦の対武蔵大学戦は八対一で四部の二位でリーグ戦を終えた。

一方女子は六部でトーナメント方式で行われ、第一回戦の北里大を七対〇で破り、その後も昭和女子大を七対〇、東海大を七対〇、津田塾大を五対二、立教大を五対二で破って六部優勝を果たし、五部との入れ替え戦でも

明治学院大学に七対〇で快勝、こゝに五部昇格を果たした。当時は一部から五部までが4校ずつで二十位に名を連ねたことになる。O・B会は有楽町のニッポン放送の地下にあるグリル・トーギョーで祝勝会を開催した。この昇格には女子のコーチをしてくれた後藤、片平、真楳の諸君の力は大きい。

この頃の事を大前(現姓中野)は随想で詳しく書いている。この一年の主な試合のスコアは次の通り

四十五年十一月八日

関東理工系リーグ戦第三戦

対理科大学 於農大コート

ダブルス

農大3—0理科大

№1〇望月・原(正) (6—2 6—1) 池田・阿部

№2〇渡辺(利)・御手洗 (7—5 6—0) 溝口・内田

№3〇藤沼・横田 (6—2 8—6) 石田・谷内

シングルス

農大6—0理科大

No. 1 ○ 渡辺 (8-10) 8-6 (6-1) 池田  
 No. 2 ○ 望月 (6-1) 6-3 ( ) 阿部  
 No. 3 ○ 御手洗 (6-4) 6-1 ( ) 山口  
 No. 4 ○ 藤沼 (6-1) 6-3 ( ) 石田  
 No. 5 ○ 阿武 (6-3) 2-6 (6-4) 谷内  
 No. 6 ○ 田村 (8-6) 6-3 ( ) 竹本  
 第二戦慶応戦で二試合落した外は全部勝ち楽々優勝

四十五年十一月二十九日

対青山学院大学秋期定期戦 於農大コート

ダブルス

農大1-2青学大

No. 1 ○ 望月・原(正) (7-5) 6-0 ( ) 滝・猪飼  
 No. 2 渡辺(利) (4-6) 6-4 (5-7) 池田○  
 御手洗  
 No. 3 中川・阿武 (1-6) 2-6 ( ) 岩・小泉○  
 シングルス  
 農大1-5青学大  
 No. 1 ○ 原(正) (6-3) 6-1 ( ) 池田

No. 2 渡辺(利) (3-6) 2-6 ( ) 鈴木○  
 No. 3 望月 (7-5) 2-6 (5-7) 猪飼○  
 No. 4 御手洗 (3-6) 0-6 ( ) 小泉○  
 No. 5 阿武 (6-4) 4-6 (4-6) 中谷○  
 No. 6 田村 (1-6) 1-6 ( ) 吉田○  
 二部青学大のベストオーダーの中で原の健闘が光る。

四十五年十一月一日

対津田塾大学対抗戦 於農大コート(女子)

ダブルス

農大1-1津田塾大

No. 1 大前・吉田 (1-6) 4-6 ( ) 大石・内川○  
 No. 2 ○ 川野・重松 (8-6) 6-3 ( ) 三輪・村岡  
 シングルス  
 農大3-2津田塾大  
 No. 1 吉田 (4-6) 2-6 ( ) 大石○  
 No. 2 ○ 川野 (6-4) 3-6 (6-1) 内川  
 No. 3 ○ 大前 (6-1) 3-6 (6-2) 稲葉  
 No. 4 佐藤 (3-6) 6-8 ( ) 三輪○

No. 5 ○重松 (6-3 5-7 6-2) 米沢

リーグ戦

四十六年四月三日、四日

関東大学庭球リーグ第四部第一戦

対成城大学

ダブルス

農大2-1 成城大

No. 1 ○望月 (6-2 6-0 6-2) 長福  
原(正)

No. 2 渡辺 (6-8 7-2) 阿和波  
御手洗 (7-5 7-9) 雨宮 ○

No. 3 ○中川 (3-6 6-2 6-2 6-3) 茂木  
阿武 (3-6 6-2 6-3) 小原

シングルス

農大4-2 成城大

No. 1 ○原 (6-2 6-2 6-3) 本田

No. 2 ○渡辺 (6-0 6-2 6-2) 長福  
藤沼 (2-6 2-6 4-6) 茂木 ○

No. 4 ○望月 (6-0 6-4 8-6) 阿和波

No. 5 阿武 (4-6 1-6) 雨宮 ○

No. 6 ○田村 (2-6 7-5 7-5 6-4) 小原

試合巧者の成城大に対してダブルスの二勝が大きく、  
シングルスは比較的余裕を持って対戦できた。

四十六年四月十・十一日

関東大学庭球リーグ第四部第二戦

対学習院大学 於学習院大コート

ダブルス

農大0-3 学習院

No. 1 渡辺(利) (8-10 4-6) 伊藤(高) ○  
御手洗 (6-4 1-6) 河村

No. 2 望月 (1-6 2-6 3-6) 田島 ○  
原(正)

No. 3 中川 (4-6 5-7 4-6) 伊藤(英) ○  
阿武 (4-6 5-7 4-6) 安部

シングルス

農大2-4 学習院

No. 1 ○渡辺(利) (3-6 6-2) 伊藤(高)

No. 2 原(正) (6-4 5-7 1-6 5-7) 歳川 ○

No. 3 御手洗 (0-6 2-6 0-6) 安部○

No. 4 望月 (4-6 4-6 6-8) 田島○

No. 5 阿武 (6-4 1-6 5-7) 伊藤(英)○

No. 6 田村 (4-6 6-4 6-4) 河村

秋に六一三と勝ったが不覚とり四部二位にとどまる。  
初日のダブルスを三戦共落したのがひびきシングルス  
では一ぱつ勝負に出たが……

四十六年四月十七・十八日

関東大学庭球リーグ第四部第三戦

対武蔵大学 於農大コート

ダブルス

農大3-0武蔵大

No. 1 望月(原(正)) (6-4 6-4 3-6 8-6) 伊藤三浦

No. 2 渡辺(利)御手洗 (4-6 6-0 6-1 6-4) 阿妻平野

No. 3 中川阿武 (8-6 6-3 6-3) 田島江夏

シングルス

農大5-1武蔵大

No. 1 渡辺(利) (6-0 6-2 6-1) 三浦

No. 2 原(正) (6-2 6-4 6-1) 江夏

No. 3 望月 (6-3 6-2 6-1) 田島

第4 阿武 (4-6 6-3 6-4) カブト木

No. 5 松本 (4-6 6-2 0-5 6-7) 伊藤○

No. 6 田村 (6-0 6-2 6-4 6-6) 平野

二年生の松本を第五位に起用フルセットのすえおし  
くも敗れる。

主な個人戦々績(四十五年)

○関東学生庭球トーナメント(五月二十四~三十日)

単二回戦出場者 望月

単二回戦 柴口 (6-3 6-1) 秋谷(明学)

○大沢(デエフォ) 鈴村(青学)

○渡辺(利) (6-2 6-3) 野口(中大)

○原(正) (6-2 6-1) 石橋(学芸)

三回戦進出 柴口、大沢

三回戦○渡辺(利)

$\begin{matrix} 6 & 4 \\ | & | \\ 6 & 3 \\ | & | \\ 6 & 4 \end{matrix}$

岡田(明大)

○原(正) (8-6 6-2) 英賀(早大)

四回戦○原(正)

$\begin{matrix} 6 & 5 & 7 \\ | & | & | \\ 4 & 7 & 5 \end{matrix}$

川村(日大)

渡辺(利) (1-6 1-6) 西徳(法大)○

五回戦 原(正) (2-6 7-9) 西徳(法大)○

複一回戦○渡辺(利) (9-7 6-3) 遠藤(成蹊大)  
原(正) 松井

二回戦 望月(0-6 1-6) 石原(慶大)○  
御手洗 松尾

渡辺(利) (3-6 0-6) 細野(法大)○  
原(正) 平井

○関東選手権 六月十日

二回戦○原(正)  $\begin{matrix} 8 & 2 & 6 \\ | & | & | \\ 6 & 6 & 4 \end{matrix}$  木村(東大)

三回戦 原(正) (1-6 2-6) 手塚(朝日生命)○

○関東理工系大学庭球大会

複決勝○望月(6-3 6-4) 加藤(相工大)  
御手洗 亀山

○全日本学生選手権大会(八月二十) 於田園コート

予選出場者 複渡辺(利)・原(正)組 単柴口

単一回戦 渡辺(利)  $\begin{matrix} 4 & 3 \\ | & | \\ 6 & 6 \end{matrix}$  播磨(福岡大)○

○原(正) (6-1 6-4) 伊藤(法大)

二回戦 原(正)  $\begin{matrix} 0 & 6 & 3 \\ | & | & | \\ 6 & 1 & 6 \end{matrix}$  若林(中京大)○

○関東学生庭球選手権大会

単出場 大沢、望月、御手洗、藤沼、原(正)、渡辺(利)

一回戦○渡辺(利)  $\begin{matrix} 6 & 6 \\ | & | \\ 6 & 1 & 3 \end{matrix}$  田島(学習院)

二回戦 渡辺(利) (2-6 3-6) 穴沢(慶大)○

複出場者望月・御手洗組、渡辺(利)・原(正)組

○第四回関東学生新進庭球選手権大会

単五回戦進出 阿武、御手洗、柴口

六回戦 望月  $\begin{matrix} 2 & 2 & 6 \\ | & | & | \\ 6 & 6 & 2 \end{matrix}$  檜崎(上智大)○

○田村  $\begin{pmatrix} 6 & 4 \\ 6 & 6 \end{pmatrix}$  佐藤 (上智大)

七回戦 田村 (2-6) 2-6 野口 (早大) ○

複五回戦 ○望月  $\begin{pmatrix} 6 & 3 \\ 6 & 4 \end{pmatrix}$  伊東 (法大)  
原(正) 曾武部

中川・阿武組、渡辺(利)・御手洗組進出

六回戦 ○望月  $\begin{pmatrix} 6 & 1 \\ 6 & 0 \end{pmatrix}$  森本 (明大)  
原(正) 竹山

準々決勝 望月  $\begin{pmatrix} 1 & 6 \\ 6 & 8 \end{pmatrix}$  加藤 (立大) ○  
原(正) 富田

○関東学生庭球選手権 (八月二十日)

女子単一回戦 ○吉田  $\begin{pmatrix} 6 & 2 \\ 6 & 3 \end{pmatrix}$  小川 (学習院)

二回戦 吉田  $\begin{pmatrix} 0 & 6 \\ 0 & 6 \end{pmatrix}$  川上 (青学) ○

複大前・吉田組出場

○関東学生新進戦

女子単六回戦進出、川野

七回戦 ○大前  $\begin{pmatrix} 6 & 3 \\ 6 & 4 \end{pmatrix}$  蘭 (桐朋短大)

吉田  $\begin{pmatrix} 5 & 7 \\ 6 & 8 \end{pmatrix}$  所沢 (お茶大) ○

八回戦 大前  $\begin{pmatrix} 0 & 6 \\ 3 & 6 \end{pmatrix}$  大石 (津田塾大) ○

### 前幹部のプロフィール

望月 一宜 (化4)

いつもマジメでもくもくと「アリ」の様にテニスに打ち込んでいた人、テニス以外にもぬけめはありませんね。合宿に行つて女の子を口説くなんてさすがアー。(でも単位不足とか? ガンバッテ下サイ)

秋山 宣久 (農4)

「どんぐりコロコロこんにちは」だどオー。いつもにこやか、素晴らしいバックハンド、かっこいいサーブ。でも春合宿では陰険に消灯を守らせ、ラジオをとりあげるなんざあ、てえしたもんだどオー。

田村 孝二 (化4)

みなさん、この先輩と話しをされた方は、すぐ先輩が東京の人だと解るでしょう。「ボク……ボク……」かわいいですね、かわいいですね。(淀川長治調に読む)でもあの気違いの様なフォア、リーグ戦での活躍はお見事です。健サン、鶴サンがお好きで、義理と人情にはたいへん堅い人でした。(二十円返してエー)

大川 松寿(経4)

「ワアワアと湧きあがる歓声……」これでおわかりでしょう。厚木マラソン二回、その他ロード、コート、グラウンドにおいて、我々スピードマニアの目を楽しませましたのです。酒もかなりお好きで、将来、赤ちようちんを開くとか……。でも大変なロマンチスト、その気持でいい人を見つけて下さいネ。超人。鳥人↓カラスさん。

中川 克仁(化4)

ひげ、ひげ、ヒゲ、ヒゲ(ゴチラ) 万成寿司の克ちゃん。ゴキブリが出そうなヒゲ、毛カビ、コウジカビ(これはヒョコチャンド)、超ロングヘアの庭球部一の超シヨート・上背の、テニスのフォームが美しい顔のカワイイ人でした。万成寿司のビルにトルコができる事を祈って……。

藤 沼秀夫(農4)

ゴミ箱、ドブ板、ゾウリ、ドブの中に落ちたゲタ。思い出させるんですこの人の顔は。おもしろい、笑わせるくだけている。「銀河アー に浮ベエー たアー」しつこく四年間歌いつづけました。みなさん、この先輩にお会いになったら一言、「ジュリー」と呼んでみて下さい。

原 正幸(短醸2)

「おじい、おじい！」と言って親しみました。しかし、本人、ひとり必死に抵抗し

「若い、若い！」と気おっっていたのです。

お年に合わず、意外にも可愛らしいそのマスクある大学のテニス部、女子に人気があったとかという噂も……

とにかく、真面目なりました。

「テニスの事なら、どこからでもこい！」とばかりその自信と誇り……

我等、筋道の通った話に、唯々うなずいたものでした。

大前 千寿子(造4)

オッ!! つばきじゃあないか、いいえサクラよ。あつそうか菜の花か、そうよレンゲの事よじゃあ植えてある土は国立の土ね。

知らない人 ここは花園ですか?

知っている人 いいえ、お米屋さんよ

四年になったら急に顔を出さなくなり、ヨーロッパなんぞへ行ったりして……

どこかいい人を見つけて、ムコに呼んでやって下さい。

求ム働キバチ……大前米店

大前花園

川野元子(栄4)

名は体を表わす。昔の人はいい事を言いました。背はのびのびと、足ののびのびとラジアルタイヤ、飲んでますかヤクルト、試合中のかけ声は同僚までも恐怖のどん底につきおとす。「ちくしょう」「あッバカ」これは農大創立以来の事とか。

有田公子(栄4)

いつもテニス部きつての短いスカートをはき、我等男子部員の目を悩ましたものでした。あの豪快な力の泣く様な笑い声、泣く子も黙る(?)あのまなざし。でもさすが栄養学科でございますね。肥満児対策もよく御存知でした。

吉田まり子(造4)

「さあ、こい!」「オ!オ!」のかけ声と共に、あのか細くて小さな体で、農大名物の乞食帽子をかぶり、ガニ股でコート狭しと走り回る姿はインディアンそっくりでした。

女子テニス界では忘れられない存在でした。

遠藤陽子(栄4)

どこかの気のいいおばちゃんって感じがピッタリなんです。「アッダメ」とか「ケア!ケア!」とか弱い声を出しながら、ものすごいボールを打つんです。そう言えば、先輩もよくころびましたね。おかげさまでコートの方も……です。

重松美知子(栄4)

背は高からず、高からず。体重も重からず、重からず。ドーンと押したらヨロケるのでは……。とは全くの勘違いなのでございます。ファイナルをすれば絶対負けない。そうです奥底に秘めたる根性にはしばしば、シャツポを脱いで最敬礼したものでございます。

佐藤英子(造4)

とつてもたのもしく感じる事があるのですかわいいなーって思った事もあるのです。でもキッとにらんだ目は、我々男子幹部をこわがせたものでした。でもある情報によると、いい人がいると云うではありませんか。

その人の名は「タイガーズのジュリー」でないでしょうか。 Co-His (eicosane) 直鎖状飽和炭化水素

中村一江(短栄2)

愛……あなたと二人、夢……あなたと二人、テニス……



…あなたと二人。

あめ玉のような目、コートブラシのように長いまつ毛、ダイコンのようなすばらしい足、あのお姫様のような女らしさで、コートいっばいにフアイトを發揮するヒメさん。

あのすばらしいフオアをもう一度……シアワセ。

田村 さつき(短栄2)

弾丸よりも早く、力は機関車よりも強く、高いボールもスマッシュで、エ……ス。

底力のあるたくましい腕、コート駆けるカモシカのよいうな足(たまにはコートでコロツケることもあったけど)そしてあのすばらしいバックハンド・エースの星、さっちゃんは、日夜テニス部の為に戦い続けるのであります。(将来ダンナも良くサバケルでしょうね)

### 昭和四十六年

主将 渡辺利行(化3) 副主将 梶原田美二(工3)

副主将 御手洗悦生(栄3) 主務 横田克己(畜3)

副主務 木村宗明(農2) 副主務 平島恵子(栄2)

副主務 吉田真智子(栄2) 渉外主務 渡辺雅彰(化)

3) 幹事 溝口景生(拓3) 会計 井上完治(造3)

夏合宿は、この年、はじめて山梨県山中湖畔平野の東照館で行なった。副主将の梶原の知人が経営してよい待遇を受け、合宿地として固定化する。

理工系団体戦は武工大、慶大、東海大にそれぞれ勝って優勝した。女子は二勝一敗で二位になり男女共の優勝はならなかった。

この年は個人戦でも好成績を残す事が出来た。(スコアはあとに示す)

尚、デ杯選手の柳恵誌郎氏を招き、直接指導を受けたり、全日本プレーヤーの中川暢行氏から助言をいただいたのもこの年のことであり、三部昇格への大きな原動力の一つになった。

四十七年一月、従来行なって来た部内マラソンを厚木から富士山麓にある国立青年の家に移し、こゝに第一回の富士マラソンを開催した。この国立青年の家には、全国各地から各種の研修をするため沢山の若者が集う所で、我々の行く時期は丁度成人を迎える若者の祭典があり活気にあふれる頃である。



第一回山中湖合宿風景（東照館コート）

（昭.46.7）

富士マラソンの第一回は、昨年の厚木の覇者二年生の中川（正）が優勝した。又、女子は田村が初のレースに見事優勝した。

卒業生送別会は一月三十日下北沢「太郎」で行ない、インカレプレイヤーの望月、原（正）らを送り出した。「勝てば官軍、リーグ戦にはどうしても勝たなければならぬ」という意気にもえ、男子レギュラー合宿を静岡市駿府公園コートで行ない、リーグ戦に備えた。又、男子準レギュラーは農大コートで、女子は千葉県東大検見川総合運動場でそれぞれ行なった。

連盟の規約変更により、それまで一部四校制が一部から三部までそのまゝ四校と変わらず、四部から六部までが六校制となり三月二十八日から男子第四部第一戦が開始された。

この時の模様を主務の横田は次のように書いている。

## 三部昇格への道

横田克己

本年度の関東大学庭球リーグ戦は改革のため、わが農大は四部の二位に位置し、三セットマッチで、入替戦が五セットで行われる事になった。

「今年こそ」と思い部員全員で団結し試合に臨んだ。第一戦の対武蔵大学戦は八対一で大勝し幸先よいスタートだったがこの日、他の強敵と予想される成城、一橋、千葉の試合を偵察に行き一校一校の戦力を詳細に記録し、幹部、レギュラー、部員でオーダーや戦法の作戦を考えてそのあとの試合に臨んだ。

そして第二戦の対千葉大戦に八対一、第三戦の対成城大戦に五対四、第四戦の対東経大戦に八対一と四勝をあげた。一方、強敵である成城大、一橋大、千葉大はお互いに星のつぶし合いをしてこの時点で四部の優勝は決定していたが最終戦の対一橋大と対した。特に気のゆるみがあった訳でもないが四対五で敗れたが主将以下部員全員この敗戦を深く反省し、新たに気を

ひきしめて翌日、三部の最終戦、順天大対学習院の試合をレギュラー、幹部で偵察に行った。この試合の結果、九対〇で学習院が勝ち順天大との間で入替戦が行われる事になった。ところが試合会場が試合日である四月二十二、二十三日の二日前まで決らず、皆をやきもきさせた。とにかく「入れ替え戦は上位校に従う」という規約があり、千葉県習志野にある順天大コートで行う事になった。しかし遠いのと交通ストが予想されたため金木部長、田中監督の計らいで千葉県八千代台農事センターに男子部員三十五名全員で宿泊し試合に臨んだ。

第一日目、十時からダブルスが始まり、予定通りNo.3の御手洗・阿武組とNo.2の渡辺(利)・松本組が勝ち優位に立った。しかしNo.1の横田・吉木組は田辺(正)久嶋組に負けて二対一で翌日のシングルスになった。翌二十三日(日)は京成電鉄ストのところ、金木先生、田辺猛先生の配慮によりマイクロボスで乗り込んだ。

九時三十分からシングルスの開始、先ずNo.6の横田、No.5の吉木が入り、接戦の末二つ共落し、二対三と逆

転されたが次にNo. 4の松本、No. 3の阿武が確実なテニスでポイントを取り、この時点で四対三と再びリードした。続いてNo. 2の御手洗とNo. 1の渡辺(利)がそれぞれ入ったが順天大のNo. 1に田辺選手(のちにデ杯選手)がいて段違いの差があり早々に試合が終った。四対四で勝敗はすべてNo. 2の御手洗にかゝった。まず第一セット六―一で取り優勢だったが第二セットになると形勢が逆転し反対に二―四とリードされたところで雨が降り出し、この試合は二十五日に延期された。そして二日後に再開され、結局第二セットは取られた。重苦しい空気が漂い、一球一球打つたびに神に祈る心境で応援し、心臓の高まりを感じた。ロブの応酬、ねばり合い、根比べであった。そして第三セットを六―四、第四セットも六―四で取り、こゝに三部昇格が決定した。

思えば三部への道は本当に遠く、苦難の連続であった。しかし昨年夏に全日本プレイヤー中川暢行氏やデ杯選手柳恵誌郎氏をコーチに招き、その教えを受けてからひと筋の光がさしたように思えた。そして三部に

昇格した今、団結によって勝ち取ったこのリーグ戦をこれからの励みとしたい。以上

こうして、悲願の三部昇格をなしとげ、関東学生連盟の加盟校のうち十二位になった事になる。

これを祝してO・B会は、東銀座・三笠会館で盛大な祝勝会を挙行した。

一方、女子は連盟規約の変更に伴い四部に繰り上げとなり、リーグ戦が行なわれたが、昨年のレギュラーが全部抜け、新四年生のいない悲しさで三勝二敗という結果だった。

尚、この一年間の主な試合のスコアは次の通り。

四十六年十一月七日 理工系リーグ第三戦

対東海大学 於東海大コート

ダブルス

農大 3―0 東海大

No. 1〇 横田 (6―3 6―4) 高橋  
吉木 (6―3 6―4) 永井

No. 2 ○御手洗 (8-6 6-4) 五十嵐俊

No. 3 ○渡辺(利) (6-4 6-4) 伊川長谷川  
小林

シングルス

農大4-2東海大

No. 1 ○渡辺(利) (6-3 6-0) 横地

No. 2 ○御手洗 (7-5 6-3) 植前

No. 3 ○阿武 (6-0 6-2) 花見

No. 4 小林 (2-6 1-6) 俊○

No. 5 ○吉木 (6-0 6-3) 奥津

No. 6 横田 (3-6 6-3 3-6) 阿武○

武工大・慶応に続き東海大も破り優勝

昭和四十六年十一月七日

関東理工系女子リーグ第一部第三戦

対成蹊大学 於東京農業大学コート

ダブルス

農大2-0成蹊大

No. 1 ○平島 (6-2 2-6 6-4) 関川大沢

No. 2 ○八木 (6-3 3-6 6-1) 中島村上

シングルス

農大2-1成蹊大

No. 1 ○平島 (6-4 4-6 6-1) 関川

No. 2 ○大越 (6-1 6-3) 村上

No. 3 八木 (2-6 4-6) 大沢○

第一戦に北里大に0-5で完敗し、第二位に留まる。

リーグ戦

四十七年三月二十八日

関東大学庭球リーグ第四部第一戦

対武蔵大学

ダブルス

農大3-0武蔵大

No. 1 ○横田 (7-5 4-6 6-3) 田嶋木戸

No. 2 ○吉木 (6-3 6-4) 竹下

No. 2 ○御手洗 (6-3 6-4) 阿妻

No. 3 ○渡辺(利) (6-2 6-2) 江夏  
松本

シングルス

農大5-1 武蔵大

No. 1 ○渡辺(利) (6-4 6-1) 江夏

No. 2 ○御手洗 (6-3 6-2) 田嶋

No. 3 ○松本 (6-1 6-0) 木戸

No. 4 ○阿武 (6-2 6-1) 高野

No. 5 右田 (4-6 6-2 3-6) 平野○

No. 6 ○吉木 (7-5 6-3) 竹下

四十七年四月二日

関東大学庭球リーグ第四部第二戦

対千葉大学

ダブルス

農大3-0 千葉大

No. 1 ○横田 (6-3 3-6 6-4) 木村  
吉木 蛭名

No. 2 ○御手洗・阿武 (6-4 6-4) 本間・中村

No. 3 ○渡辺(利)・松本 (6-0 6-0) 清水・矢口

シングルス

農大5-1 千葉大

No. 1 ○渡辺(利) (6-1 6-0) 本間

No. 2 御手洗 (6-0 3-6 1-6) 木村○

No. 3 ○阿武 (6-2 6-2) 清水

No. 4 ○松本 (6-1 6-1) 矢口

No. 5 ○吉木 (7-5 7-5) 中村

No. 6 ○右田 (6-3 1-6 7-5) 蛭名

四十七年四月六日

関東大学庭球リーグ第四部第三戦

対成城大学

ダブルス

農大2-1 成城大

No. 1 横田・吉木 (4-6 3-6) 阿知波・雨宮○

No. 2 ○渡辺(利)・松本 (7-5 6-2) 茂木・河村

No. 3 ○御手洗・阿武 (6-4 6-2) 内野・小原

シングルス

農大3-3 成城大

No. 1 渡辺(利) (8-6 5-7 3-6) 阿知波○

No. 2 御手洗 (7-9 2-6) 茂木○

No. 3 阿武 (6-4 6-2) 河村

No. 4 松本 (6-0 6-4) 雨宮

No. 5 右田 (4-6 3-6) 本田○

No. 6 吉木 (9-7 7-5) 小原

四十七年四月十日

関東大学庭球リーグ第四部第四戦

対東京経済大学

ダブルス

農大3-0東経大

No. 1 横田・吉木 (6-4 6-4) 土野・中村

No. 2 渡辺(利)・松本 (6-1 6-2) 石原・新井

No. 3 阿武・小林 (6-1 6-2) 塩見・早川

シングルス

農大5-1東経大

No. 1 渡辺(利) (6-1 7-5) 土野

No. 2 松本 (6-1 6-2) 新井

No. 3 阿武 (6-2 6-1) 塩見

No. 4 右田 (4-6 3-6) 中村○

No. 5 吉木 (6-2 6-0) 早川

No. 6 横田 (7-5 6-4) 石原

四十七年四月十五日

関東大学庭球リーグ第四部第五戦

対一橋大学

ダブルス

農大2-1一橋大

No. 1 横田・吉木 (3-6 0-6) 名坂・井村○

No. 2 渡辺(利)・松本 (6-2 6-1) 亀井・渡辺

No. 3 御手洗・阿武 (6-3 10-8) 長島・星川

シングルス

農大2-4一橋大

No. 1 渡辺(利) (4-6 2-6) 名坂○

No. 2 御手洗 (3-6 2-6) 井村○

No. 3 阿武 (6-2 6-2) 寺坂

No. 4 松本 (8-6 7-5) 亀井

- No. 5 小林 (5-7 0-6) 星川○  
 No. 6 吉木 (6-8 3-6) 長島○

四十七年四月二十二日

関東大学庭球リーグ第三部第四部入れ替え戦

対順天堂大学

ダブルス

農大 2-1 順天大

- No. 1 横田 (3-6 1-6 3-6) 田辺○  
 吉木 久嶋○  
 No. 2 御手洗 (6-2 6-3 6-1) 富永○  
 阿武 松本○  
 No. 3 渡辺 (利) (6-0 6-4 6-4) 堀本  
 松本 菅原

シングルス

農大 3-3 順天大

- No. 1 渡辺 (利) (0-6 1-6 5-7) 田辺○  
 No. 2 御手洗 (6-1 2-6) 菅原  
 (6-4 6-4)  
 No. 3 阿武 (6-2 6-1 6-4) 堀本  
 No. 4 松本 (6-2 6-1 6-1) 松本○

- No. 5 横田 (3-6 3-6 4-6) 久嶋○

- No. 6 吉木 (5-7 5-7 2-6) 富永○

順天大田辺は、オールジャパン出場関東学生ランキング一位の選手。御手洗は、二日ばかりで五つ目の勝利をもぎとり、松本・阿武の二年生コンビが単・複全勝の活躍をした。

四十七年四月四日

関東大学女子庭球リーグ第四部第三戦

対東京教育大学

ダブルス

農大 1-1 東京教大

- No. 1 平島・大越 (6-1 6-2) 森川・高橋  
 No. 2 八木 (6-4 2-6 2-6) 緑川○  
 内藤 石坂○

シングルス

農大 4-1 東京教大

- No. 1 吉田 (1-6 6-3 6-0) 森川  
 No. 2 平島 (6-3 6-0) 長田



No. 3 内田 (1 | 6 3 | 6) 緑川 ○

No. 4 ○大越 (3 | 6 6 | 3 8 | 6) 石坂

No. 5 ○内藤 (4 | 6 7 | 5 7 | 5) 高橋

三勝二敗で第三位

主な個人戦々績 (四十六年)

。関東学生庭球トーナメント

单二回戦 ○原 (正)  $\begin{pmatrix} 4 & 6 \\ 6 & 2 \\ 6 & 4 \end{pmatrix}$  野口 (早大)

○望月 (6 | 4 6 | 3) 松村 (早大)

○渡辺 (利) (6 | 4 6 | 3) 清水 (立大)

御手洗、阿武は敗退

单三回戦 原 (正) (3 | 6 8 | 10) 川口 ○ (近大)

望月 (1 | 6 2 | 6) 今西 ○ (関学)

渡辺 (3 | 6 1 | 6) 不明 ○

複三回戦 ○望月  $\begin{pmatrix} 1 & 6 \\ 6 & 3 \\ 6 & 4 \end{pmatrix}$  播磨 (福岡大)

原 (正)

四回戦 望月 (2 | 6 2 | 6) 英賀 (早大) ○  
原 (正) (2 | 6 2 | 6) 渡辺 (早大) ○

。東京選手権大会

複二回戦 ○望月 (8 | 6 6 | 1) 安間 (日大)  
原 (正)

三回戦 望月・原 (2 | 6 2 | 6) 西脇・柳原 ○

(柳原は今年度全日本ランキング十二位)

单 エントリー十名

三回戦 ○中川 (克) (6 | 1 6 | 3) 不明

○原 (正) (6 | 4 6 | 1) 神戸 (慶大)

四回戦 中川 (克) (1 | 6 2 | 6) 滝 (青学大) ○

原 (正) (4 | 6 3 | 6) 井田 (田園ク) ○

。全日本学生庭球選手権大会 (於大阪香炉園コート)

单望月予選で敗退

一回戦 渡辺 (利)  $\begin{pmatrix} 1 & 6 \\ 2 & 6 \end{pmatrix}$  木村 (甲南大) ○

原 (正) (2 | 6 3 | 6) 長野 (関大) ○

複出場者望月・原 (正) 組

。関東学生庭球選手権大会

单出場者 御手洗、原 (正)、松本、阿武、渡辺 (利)

二回戦 ○渡辺 (利)  $\begin{pmatrix} 6 & 1 \\ 5 & 1 \\ 6 & 4 \end{pmatrix}$  北川 (慶大)

松本 (7-9) 1-6 武田 (成蹊) ○  
阿武 (2-6) 2-6 三宅 (法大) ○

三回戦 渡辺 (利)  $\begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 6 & 1 \\ 6 & 6 \end{pmatrix}$  小田 (早大) ○

復出場者、望月・原 (正) 組、渡辺・吉木組、横田・松本組、御手洗・阿武組

二回戦 御手洗  $\begin{pmatrix} 1 & 0 & 6 \\ 6 & 6 & 3 \end{pmatrix}$  田辺 (順天大) ○  
阿武  $\begin{pmatrix} 1 & 0 & 6 \\ 6 & 6 & 3 \end{pmatrix}$  金光

。第六回関東学生新進庭球選手権大会

単六回戦 御手洗 (1-6) 1-6 安居 (慶大) ○

○松本 (6-4) 9-7 阿武 (農大)

吉木 (3-6) 4-6 林 (青学大) ○

七回戦 ○松本 (6-3) 6-2 柴田 (東外大)

八回戦 ○松本 (7-5) 6-3 中野 (教育大)

準々決勝 ○松本 (6-4) 6-4 石井 (早大)

準決勝 松本 (4-6) 2-6 佐藤 (慶大) ○

複六回戦 ○御手洗 (6-2) 6-3 福田 (法大)  
阿武 森本

○渡辺 (利) (6-1) 7-5 水野 (東海大)  
松本 横地

○横田 (6-3) 7-5 本間 (千葉大)  
吉木 中村

七回戦 (ベスト16位)

御手洗 (3-6) 7-9 松本 (法大) ○  
阿武 伊藤

渡辺 (利) (1-6) 5-7 渡辺 (法大) ○  
松本 庄野屋

横田 (3-2) 6-4 太田 (法大) ○  
吉木 (3-6) 6-6 大畑

。関東学生庭球トーナメント (女子)

単二回戦 吉田  $\begin{pmatrix} 5 & 5 & 7 \\ 7 & 7 & 5 \end{pmatrix}$  小川 (学習大) ○

川野 (デフォ勝ち)

三回戦 川野  $\begin{pmatrix} 3 & 6 & 1 \\ 6 & 3 & 6 \end{pmatrix}$  遠北香 (日大) ○

複一回戦 ○吉田 (6-1) 6-0 宮地 (成蹊大)  
川野 川添

二回戦 吉田 (6-8) 1-6 大塚 (愛知女短大)  
川野 加藤

○関東学生新進庭球選手権大会(女子)

単六回戦 平島(0-6) 1-6 星野(日大) ○

○田村(6-0) 6-4 内浦(清泉)

七回戦

田村  $\begin{pmatrix} 1 & 6 \\ 6 & 4 \\ 5 & 7 \end{pmatrix}$  藤田(青学大) ○

複五回戦

○田村  $\begin{pmatrix} 6 & 2 \\ 4 & 6 \\ 6 & 4 \end{pmatrix}$  三輪(学習大)  
○中村(一) 須田(立大)

○中村(志) 浦田(立大)  
○吉田(光) (デェフォ勝ち) 山川

第六回戦

田村  $\begin{pmatrix} 2 & 6 \\ 3 & 6 \end{pmatrix}$  志津(学芸大) ○  
中村(一) 工藤

中村(志) 吉岡  
吉田(光)  $\begin{pmatrix} 1 & 6 \\ 0 & 6 \end{pmatrix}$  入江(I・C・U) ○

前幹部のプロフィール

渡辺 利行(化4)

「おれにもあいつぐらいのサービスがあったらなあ」と言っても、ボールをねじふせるようなフオアで打ちまくり、コート狭しと走りまくるあの足はとても人間業とは

思えません。あの円な腫で見詰められたら、いや睨まれたら、行儀の悪い後輩達も正座し直すでしょう。

横田 克己(畜4)

コートを見るといつでも練習している人。ダブルスの魅力に取付かれ、後輩を悩ました人。鹿島組組員。我々後輩の金欠病を直してくれた人。クラブのために骨身を惜しまず働いた人。でも卒論は忘れずにやって下さい。彼女も期待してますヨ!

渡辺 雅彰(化4)

ダバ・ダバ・ダバ・ダバ。サー スー ズバーン。気持ちいい。そうか、まあ一パイ、すぎちよびれ、いや短かびの……「此頃腹が出て来たな」。やんなっちゃうな。「いや、それほどでもないっすよ。先輩」「日本酒は禁酒にしてんだ」「むりむり」。防腐剤入りは二日酔するもんね。「林産化学で研究済みだもんね」

梶原 田美二(工4)

カジワラダー。となせか四年になってますますファイト。女子部のコーチも楽じやない。カナ? いやいや、どうしてどうして。寝ていてもビールが飲めるというその口で、「どうしてってネ」とトクと語るは先祖伝来の

ストローク。今日はどこでパチンコをやりますか？

御手洗 悦生(栄4)

オテアライだって。農大の御手洗を知らねえな。あのすばらしいバックを。ガッツを。さんしよりの実のからさを。いや順天堂大と農大のテニス部員は皆知っていません。からさを、シヨツパサを、あまさを、にがさを。

溝口 景生(拓4)

悩み多きこの人生に我はいかで生きなん

To be or not to be That is question

「景生さん、どこまで」「チヨットそこまで」「うれしがる」

井上 完治(造4)

「カンジ」と誰かが呼べば「いや僕は会計だよ」とでも言いそうな、そんな真面目な人です。「フアイト・オウ」テニス部でも珍らしいほどの健康優良児。でもなやみはありませんよネ

井上さん！

山本 栄子(醸4)

あなたはテニス部の太陽でした。いつも笑いとフア

イトを与えてくれ、時には文学的才能をみせ、年(?)を感じさせない栄子さん。これからも、栄子さんのもいまえの美しさを皆に分け与え、未来にはばたけ！そして、ボールをみつめるあの真剣な目を……

八木 静枝(短栄2)

地響きひとつなく、ロングスカートでかるやかにさうと現われ、まさにジャンボジェット機のようなスピードで突進し打ちまくる人。名実共にその名の起こしたのだろるか？

内藤 久美子(短栄2)

ナエトコ トコ トコ ピョントコ コートでピョントコはねまわり 小さな体で大活躍 ペアリーのジャンボと、その名も高き宇宙にまで響いた デコボココンビのおひとりさん

吉田 光子(短栄2)

テニス部唯一の美容コンサルタント  
我々のいこの場を与えてくれた人(それとも与えさせたのか?)やさしさを、女らしさは誰にもまけない。その名は誰でも知ってるミツチャンです。(かげの声  
誰がミツチャンをこうさせた?)

## 四十七年

リーグ戦のあと幹部交代が行なわれ、次のように決定した。なお、この年から庭球部長が十三年務められた金木先生に代って檜垣先生が就任した。尚、部長代行の田辺猛先生の陰の力は非常に大きなものがあつた。

部長 檜垣宮都 監督 田中正六 主将 松本透(造3) 副主将 吉木英人(農3) 主務 野田義真(工3) 中川正臣(榮3) 渉外主務 木村宗明(農3) 原宏之(畜3) 幹事 青山宏(林3) 滝沢雄造(化3) 会計 杉本龍彦(農3) 九鬼博(造3) 企画係 阿武高志(造3) 都地謙二(工3) 女子 主将 平島恵子(榮3) 副主将 大越園枝(榮3) 主務 吉田真智子(榮3) 渉外主務 内田陽子(榮3) 会計 中村志津代(榮3)

夏合宿は山中湖平野の東照館で二回目の合宿を行なつた。

個人戦は、各大会に多数出場し、世田谷選手権では男子の単・複と女子の単の優勝を果した。(主なものはあとに示す)

理工系の団体戦は十月二十九日から開始され、男女共、三戦全勝したが男子は二位となり、女子は優勝した。

四十八年一月に第二回の富士マラソンを行なつた。生憎の雪とみぞれであつたが皆完走した。この年、一年生の嘉年坂は快調にとばし、中川(正)の三連勝をはばみ優勝したが又しても「三連勝は出来ない」「一年生に負ける」のジンクスがくり返された。

尚かくし芸で旗あげを得意としている一年生の岩田は本物の国旗掲揚が出来た。

送別会は下北沢「太郎」で行なわれ、三部昇格を果した前幹部達は社会へ巣立って行つた。

春合宿は、男子レギュラーが京王テニスクラブで、準レギュラーと女子は農大コートで行ない、リーグ戦にそなえた。

尚女子はオリンピック記念青少年総合センターに宿泊し、農大まで通つた。

男子第三部のリーグ戦は三月三十一日から開始、第一週は、日本大学に三対六で敗れた。この頃の日は農大戦にこそ出場しなかつたが前年度高校No.1の坂本兄弟を

擁し他校より断然強く、この年二部に昇格した。第二週の東京大学、第三週の中央大学はいずれも勝って、三部の二位になり、関東学生庭球連盟の加盟校八十数校の中の第十位になった。これは戦後の最高位である。

一方女子の四部リーグ戦は、三月二十六日から開始し、千葉大学には三対四で敗れたが、東京教育大学、和光大学、独協大学、立教大学に勝ち、ポイント差で優勝した。入替戦は早稲田大学と対戦する予定だったが、相手校が棄権したため、三部に昇格した。

五月二十七日、コート開きを兼ねて、女子の三部昇格祝勝会を農大生協ホールで開催した。

尚この一年間の主な試合のスコアは次の通り。

### 理工科系リーグ戦

四十七年十月二十九日

関東理工科系リーグ第一部第一戦

対武蔵工業大学 於農大コート

ダブルス

農大2—1武蔵大

No. 1 渡辺 (6—4 3—6 6—2) 中崎  
御手洗 加藤

No. 2 松本・都地 (6—1 6—4) 渡部・高岡

No. 3 中川・原(宏) (2—6 5—7) 干・石井○

シングルス

農大4—2武蔵大

No. 1 渡辺(利) (6—3 6—4) 加藤

No. 2 松本 (6—1 6—1) 石井

No. 3 御手洗 (4—6 3—6) 干○

No. 4 中川 (6—1 6—0) 高岡

No. 5 安藤 (2—6 3—6) 中崎○

No. 6 都地 (6—4 3—6 6—2) 渡部

レギュラー4人新進戦と重なり不出場。代って四年渡辺(利)、御手洗。準レギ安藤、中川、原(宏)が参加。試合には勝ったが安藤の登録もれ発覚、負け試合となる。

このため理工系一部2位になる。

### 對抗戦

四十七年十一月二十三日

対成蹊大学対抗戦 於成蹊大コート

農大1—2成蹊大

ダブルス

No. 1 松本・小林 (4—6) 0—6 真上・山崎○

No. 2 吉木  
右田 (6—2) 2—6 2—6 石森  
片岡○

No. 3 阿武・深沢 (7—5) 9—7 塩谷・中村

シングルス

農大4—2成蹊大

No. 1 松本 (4—6) 6—4 4—6 真上○

No. 2 阿武 (6—3) 6—4 山崎

No. 3 吉木 (6—8) 3—6 片岡○

No. 4 右田 (6—2) 6—3 石森

No. 5 深沢 (6—3) 2—6 6—3 中村

No. 6 都地 (6—2) 7—5 塩谷

単No. 2、阿武、インカレ予選を相手に一気に攻め  
きる。成蹊は2部校。負ける気がせず敵陣に乗り込  
む。

リーグ戦

四十八年四月一日

関東大学庭球リーグ第三部第一週

対日本大学 於農大コート

ダブルス 三月三十一日

農大1—2日大

No. 1 吉木  
右田 (2—6) 2—6 1—6 山本  
荒巻○

No. 2 松本  
小林 (4—6) 2—6 3—6 露木  
松本○

No. 3 阿武  
深沢 (6—3) 6—2 6—4 清水  
秋本○

シングルス 四月一日

農大2—4日大

No. 1 松本 (6—3) 6—4 8—6 大橋

No. 2 右田 (5—7) 4—6 4—6 荒巻○

No. 3 吉木 (2—6) 2—6 1—6 山本○

No. 4 阿武 (6—1) 6—4 5—7 露木

No. 5 深沢 (2—6) 2—6 4—6 松本○

No. 6 都地 (4—7) 6—9 3—6 米田○

日大は新入生の高校No.1だった坂本兄弟をエントリ  
せず、これにより農大にとって一筋の光明が輝いた。  
が、さすがにオールジャパン、インカレと持ち駒の豊  
富さの前に敗れ去る。この年日大は二部昇格。

四十八年四月九日・十一日

関東大学庭球リーグ第三部第二週

対東京大学

於東大コート

ダブルス 四月九日

農大1—2東大

No.1 松本 (3—6) 2—6 3—6 岡田○

No.2 吉木 (3—6) 2—6 2—6 石木○  
右田 (3—6) 2—6 2—6 中田○

No.3 阿武 (6—2) 6—8 9—7 7—5 中村  
深沢 (6—2) 6—8 9—7 7—5 大谷

シングルス 四月十一日

農大4—2東大

No.1 松本 (0—6) 9—7 4—6 5—7 石木○

No.2 山田 (4—6) 2—6 2—6 岡○

No.3 右田 (6—4) 2—6 6—4 6—4 角田

No.4 阿武 (6—2) 6—1 6—2 中村

No.5 深沢 (2—6) 6—1 6—4 7—5 大谷

No.6 都地 (7—5) 6—2 6—0 中田

東大の岡、石木はオールジャパン。右田、フルセツ  
トの大接戦の末勝つ。これによって農大に勝利をもた  
らしたといっても過言でない。他校にいわせると農大  
番狂わせ。

昭和四十八年四月十二日

関東大学庭球リーグ第四部第四戦(女子)

対独協大学

於独大コート

ダブルス

農大1—1独協大

No.1 平島 (1—6) 6—0 6—1 垣井  
大越 (1—6) 6—0 6—1 阿施

No.2 内田・吉田 (4—6) 1—6 宇都野 鈴木○

シングルス



農大3—2 独協大

No. 1 ○平島 (6—1) 6—1) 阿施

No. 2 ○大越 (6—0) 6—1) 仁藤

No. 3 江間 (4—6) 2—6) 宇都野 ○

No. 4 内田 (6—4) 2—6) 3—6) 鈴木 ○

No. 5 ○吉田 (1—6) 6—4) 6—3) 垣井

平島・大越は関東学生のため一、二位の順序動かさず吉田が下位でポイント・ゲッターになる。

四十八年四月十五日・十八日

関東大学庭球リーグ第三部第三週

対中央大学 於農大コート

ダブルス 四月十五日

農大2—1中大

No. 1 ○松本 (6—1) 6—4) 6—2) 高宮  
阿武 西川

No. 2 右田 (5—7) 4—6) 相場 ○  
深沢 (6—8) 4—6) 坂田 ○

No. 3 ○山田 (6—2) 6—3) 6—4) 吉田  
小林 手島

シングルス 四月十八日

農大4—2中大

No. 1 ○松本 (6—1) 6—0) 6—1) 高宮

No. 2 山田 (8—6) 7—3) 9—6) 坂田 ○

No. 3 ○右田 (6—4) 4—6) 7—5) 6—4) 西川

No. 4 阿武 (6—5) 4—7) 2—1) 6—6) 吉田 ○

No. 5 ○深沢 (6—2) 6—3) 6—1) 岡田

No. 6 ○都地 (6—4) 8—6) 6—2) 相場

山田・小林の二年生ペアが健闘、同じく二年生の右田、深沢も単で頑張った。

昭和四十八年四月十九日

関東大学庭球リーグ第四部第五戦 (女子)

対立教大学 於立大コート

ダブルス

農大1—1立大

- No. 1 ○平島・大越 (6-3 9-7) 藤波・車戸
- No. 2 内田・吉田 (5-7 1-6) 八木・利重 ○

シングルス

農大 3-2 立大

- No. 1 ○大越 (6-1 7-5) 車戸
- No. 2 ○平島 (6-1 6-2) 持田
- No. 3 内田 (3-6 5-7) 利重 ○
- No. 4 ○吉田 (7-5 6-1) 藤波
- No. 5 中村 (3-6 2-6) 八木 ○

以上の結果四部優勝が決定。入替戦は早稲田大学が試合を放棄したため不戦勝となり女子三部昇格の偉業を達成。

主な個人戦々績 (四十七年)

。関東学生庭球トーナメント

- 単出場者 渡辺(利) 松本、右田、御手洗、阿武、吉木

二回戦

渡辺(利)  $\begin{matrix} 6 & 4 \\ 4 & 4 \\ 4 & 6 \\ 6 & 6 \end{matrix}$  塚本(法大) ○

- 松本 (7-5 6-1) 渡辺 (法大)
- 右田 (1-6 3-6) 太田(法大) ○

- 三回戦 松本 (7-9 4-6) 岡(東大) ○
- 複一回戦勝者御手洗・阿武組

二回戦 御手洗 阿武 (5-7 3-6) 石原(慶大) ○

。関東学生庭球選手権大会

- 単松本、阿武、吉木、右田、山田
- 複松本・右田組が出場
- 単二回戦 ○松本 (8-6 9-7) 真上(成蹊大)
- 三回戦 松本 (2-6 2-6) 小杉(法大) ○

。全日本学生庭球選手権大会 (七月十八日?)

- 単一回戦 渡辺(利) (3-6, 3-6) 福地(早大) ○
- 松本 (3-6 1-6) 松本(法大) ○

。関東理工系大学庭球大会

- 単準決勝 ○渡辺(利)  $\begin{matrix} 3 & 6 \\ 6 & 6 \\ 4 & 4 \\ 6 & 2 \end{matrix}$  八島(日大)

決勝 ○渡辺(利) (6-3 6-4) 加藤(武工大)

。世田谷庭球選手権大会

- 単準決勝 ○渡辺(利) (6-4 6-4) 都地(農大)
- 右田 (6-0 6-3) 深沢(農大)

決勝○渡辺(利) (6-3 6-4) 右田

複準決勝 都地 伊藤 (日大) ○  
右田 野村

決勝○松本 伊藤 (日大)  
深沢 (6-0 6-1) 野村

第七回関東学生新進庭球選手権大会(十月十二日)

単五回戦勝者阿武、吉木、都地、右田、小林

六回戦○阿武 中野(教育大)

○吉木 (7-5 6-4) 井村(一橋大)

○右田 (7-5 6-1) 岩村(明星大)

七回戦 阿武 (3-6 4-6) 伊藤(法大) ○

吉木 (1-6 3-6) 布施(慶大) ○

右田 (0-6 3-6) 石田(法大) ○

複六回戦○阿武 坂井(明星大)  
深沢 (6-1 6-0) 岩村

○山田 (7-5 6-2) 福田(法政)  
小林

七回戦 阿武 (4-6 2-6) 布目(慶大) ○  
深沢

山田 野口(中央大) ○  
小林 (1-6 0-6) 横山

。関東学生庭球トーナメント(女子)

複出場者 八木・内藤組

。関東学生庭球選手権大会(女子)

(八月十四日~八月二十四日)

単出場者平島、大越、八木

複出場者平島・大越組、八木・内藤組

二回戦 平島 相原(日大) ○  
大越 (0-6 1-6) 栗田

四十七年度関東学生新進庭球選手権女子

(十月十七日~十一月二日)

女子単七回戦 平島 碓井(和光大) ○  
大越 (2-0 2-6)

大越 (2-2 2-6) 国元(慶大) ○

複七回戦 平島 山田(学習大) ○  
大越 (5-2 2-7) 伊藤

。世田谷庭球選手権大会（女子）  
 単決勝○平島（6―4 6―2） 斉藤（家政学院大）

### 前幹部のプロフィール

松本 透（造4）

ラバのような足、丸太のような腕、ゾウキンのようなテニス着、あらゆる病原菌をもった体から打ちこまれるフォアは、まさに驚異でありました。しかしそれが魅力でした。

青山 宏（林4）

農大一のハンサムボーイ。女子寮で噂No.1が先輩でした。女子高校の先生になるのが目下の夢とか。さぞもてるでしょう。酒は御三家の一人（チョットほめすぎかな）。

安藤 浩二（林4）

表情ひとつ変えないでされるテニスはまさに無気味に思えたものです。四年間、平塚から二時間かけての通学ごころうさまでした。そのためか浴線のパチンコ屋はほ

とんど征服したとか、というほどの名パチンカー。本日はどこのパチンコ屋が新装開店ですか。

阿武 高志（造4）

通称シッポさん、「ハァー、信じられない。」「ハァー、信じられない。」とよく超ファインプレーで我々を驚かせたものです。得意のスピンスービスとスマッシュはリーグ戦では重要な武器でした。

浮谷 芳之（造4）

月のようにまんまると出た腹。えんとつのように長い胴。国松君のお父さんのような顔。まるで、マンガに出てくるような人でした。今度テレビに出られるとか？

木村 宗明（農4）

腰を落さずにフラットでのフォアのリターンは私たち後輩のファーストボレーの自信をなくす原因でした。皆は木村さんのことを「お父さん」といつも呼んでいます。我々も「お父さん」と呼びましょう。

九鬼 博（造4）

アッシュのサーブはカクキのサーブか。といわれるほどのサーブは警視庁の高速パトロールカーもつかま

えられなかったとか。また、ものしりで私たち後輩のブリタニカ百科事典でもありました。

杉本龍彦(農4)

いつも無口な人でした。しかし時々見せられる笑顔は何か意味深そうでした。また時々しゃべられる言葉はいつも我々の興味をささうものでした。まさに〇〇〇〇テイオーその人でした。

滝沢雄造(化4)

高校時代のブラスバンドから一変して大学ではテニス。いつも単行本をかかえてはテニスコートへ。何事にも熱心にうちこむ姿は私たちのよい手本でした。それで『先生』と呼ばれたのかな。

都地謙二(経4)

お酒が入ると「チャンチャンチャチャンチャチャン……」と言って顔一面に笑みを浮かべ我々を楽しませてくたさったものです。そのような都地さんも一旦コートに入ると顔色一つ変えず打ちこむ華麗なフォアはまさに芸術でありました。

中川正臣(栄4)

白衣を着た時が一番様になっている人。我部の笑いの素でした。「アハッ ハッハハハハ。十年笑えるよ。アッハハハハ。」と声高く笑うは中川さん。

野田義真(工4)

「クソムライシ」「そんなもんだらう」「さあーいってみよう」「ソウカン」部内ではやった流行語の半分以上は先輩の口から出たものでした。酒ならウイスキー。やはり御三家の一人でした。やや短気、気前の良さは生粋の九州男児だからでしょうか。

原宏之(畜4)

いつも笑顔を絶やさなかった人でした。まさに太陽のような人でした。ビー玉さん、ビー玉さん。もう一度ビー玉さん。アーさわやかだ。

吉木英人(農4)

ボレーの名人。タツチのよさは農大一。そのタツチのよさを買われてか。現在女子のコーチに就任。夏の合宿では張り切りすぎてブッタオレタとか。ホントにホントにごくろうさん。

平島恵子(栄4)

二年間の主将生活、御苦勞様でした。きれいなフォームとすばらしいフットワーク、私達をいつも魅了させていました。そして、男性方にもとてももてたとか……。

内 田 陽 子 (栄4)

常に顔のお手入れをかかさなかった唯一の女性。めがねの奥から見つめられあの一声を出すと、男性でさえ小さくなってしまったみたいですよ。

大 越 園 枝 (栄4)

あの豪快な逆クロ、私たちの胸をすかすとさせました。後輩のめんどりみものとてもいい先輩でしたネ。そして練習が終わるとすぐに着替えていた姿がたまに私たちの目につりました。(なぜでしょう?)

中 村 志津代 (栄4)

愛称、チビと呼ばれていましたネ。ちよつと長めのスカートをはき、金太郎さんのような小さなからだでコートを走る姿を思い出します。

吉 田 真智子 (栄4)

二年間の主務の仕事、御苦勞様でした。左ぎつちよぶフルに生かしリーグ戦では、常にポイントゲッターとし

て活躍されました。そして常にうわさの人でした。

倉 本 やす子 (短栄2)

タフな人、女子No.1。おしゃべりもスピーカーのように次から次へとまさに女子No.1。練習や試合で出てくるあの真剣な声は今も耳に響きます。

武 井 節 子 (短栄2)

あの細いからだにもめげずタフでした。そして、静かで落ち着いていて、一番女らしかったと思います。あの茨城なまりも一つの話題になりました。

リーグ戦の後幹部交代が行なわれ次のように決定した。

### 昭和四十八年

男子主将 山田龍彦 (畜3) 副主将 右田基司 (経)

3) 主務 小林正秀 (畜3) 副主務 高木隆雄 (造)

2) 涉外主務 深沢保生 (経3) 副涉外主務 嘉年坂

幸雄 (工2) 幹事 古川定道 (拓3) 体連委員 江崎

一成 (工2) 会計 手塚徳文 (拓3) 副会計 藤田理

(化3) 学連 斉藤正美 (経2) 女子主将 峰村和枝

(栄3) 主務 江間順子 (化3) 副主務 高橋玲子 (化



納会記念撮影 (昭. 47. 12)

2) 会計 清水洋子 (拓2)

夏合宿は男女共山中湖平野の「東照館」で行なわれた。この頃の個人戦には、関東学生の本大会で松本が三回戦まで進出し、インカレに単で松本、複で山田・小林組が出場した。

理工系団体戦は、男女共優勝、又、この年収穫祭では、この頃の流行もあって模擬店を出店し、しることだんごをつくって売った。この模擬店は二十年振り位に開店したのもらしい。

四十九年一月、富士マラソンで嘉年坂は二連勝した。

一月二十日、恒例の卒業生送別会を下北沢駅前「太郎」で開催、この年は二十一名の卒業生を送り出した。これはかつてない人数である。

春合宿を静岡大学コートで行ない、リーグ戦にのぞんだ。

男子第三部、第一週の対東京大学戦は、一ポイントを争う試合になったが、複で二対一とリードしたので、結果的には貴重な一勝となった。第二週、第三週はともに敗れ、三位にとどまった。一方、女子は、昨年のレギュ

ラーが全員卒業したため、戦力が落ちたのも仕方ない事であった。五戦五敗し、对教育大学との入替戦も○対七で敗れ、残念ながら四部に降格した。

尚、九年間努めて来られた田中正六監督が辞任し、代つて宇野 晃が就任した。

この一年間の主な試合のスコアは次の通り。

リーグ戦

四十九年三月三十日—三十一日

関東大学庭球リーグ第三部第一週

对東京大学 於農大コート

ダブルス

農大2—1東大

No. 1 山田 (6—4) 角田  
小林 (3—6) 堀尾○

No. 2 右田 (7—5) 6—2 6—3) 高井  
深沢

No. 3 高木 (4—6) 7—5) 大谷  
近藤 (6—2) 6—3) 笠井

シングルス

農大3—3東大

No. 1 山田 (2—6) 1—6 3—6) 角田○

No. 2 右田 (6—2) 6—2 6—3) 大谷

No. 3 深沢 (6—1) 6—1 6—2) 藤本

No. 4 小林 (6—1) 6—1 6—1) 酒井

No. 5 嘉年坂 (4—6) 1—6 4—6) 堀尾○

No. 6 高木 (6—1) 6—4 4—6) 小林○  
(4—6) 3—6

四十九年四月二十二日—二十三日

関東大学庭球リーグ第三部第三週

对学習院大学 於学習院大コート

ダブルス

農大0—3学習院大

No. 1 山田 (0—6) 1—6 1—6) 井上○  
小林

No. 2 右田 (6—8) 4—6) 野田○  
深沢 (6—1) 6—6) 石崎○

No. 3 高木 (7—5) 2—6) 川田○  
近藤 (10—8) 3—6) 荒川○

シングルス

農大3—3学習院大



No. 1 山田 (3-6) 3-6 3-6 井上○

No. 2 ○右田 (7-5) 6-6 6-4 5-7 野田

No. 3 ○深沢 (8-10) 6-2 6-2 6-2 柴田

No. 4 ○小林 (6-1) 6-2 6-2 川田

No. 5 高木 (3-4) 6-6 3-6 並木○

No. 6 嘉年坂 (1-6) 2-6 2-6 東○

以上の結果男子は第三部第三位となり三部を維持。

四十九年四月七日

関東大学庭球リーグ第三部第四戦(女子)

対共立女子大学於農大コート

ダブルス

農大0-2共立女大

No. 1 峰村・江間 (1-6) 4-6 伊東・河田○

No. 2 清水 (6-1) 1-6 3-6 平山○

シングルス

農大3-2共立女大

No. 1 ○峰村 (6-1) 6-3 山田

No. 2 ○角田 (5-7) 6-4 7-5 河田

No. 3 清水 (1-6) 3-6 伊東○

No. 4 ○江間 (6-2) 6-2 藤林

No. 5 高橋 (2-6) 0-6 平山○

複を二試合共落したのがいたく五戦全敗となる。

四十九年四月二十五日

関東大学庭球リーグ第三部第四部入れ替え戦(女子)

対教育大学於農大コート

ダブルス

農大0-2教育大

No. 1 清水・角田 (1-6) 0-6 緑川・川浪○

No. 2 峰村・江間 (4-6) 1-6 野木・谷内○

シングルス

農大0-5教育大

No. 1 加藤 (6-4) 1-6 1-6 長田○

No. 2 峰村 (2-6) 3-6 緑川○

No. 3 角田 (7-5) 3-6 5-7 谷内○

No. 4 江間 (4—6 6—2 1—6) 野木○

No. 5 高橋 (0—6 3—6) 川浪○

以上の結果女子は四部降格になった。

### 主な個人戦々績 四十八年

春 関東学生庭球トーナメント

出場者 松本、阿武、吉木、都地

右田、山田。阿武は二回戦

松本は三回戦進出

インカレ 出場者 単 松本 複 山田、小林

## 前幹部のプロフィール

山田 龍彦(畜4)

先輩のツキ球が何人体に当たったか、みんな覚えてる？ ポレーの恐怖感先輩によって芽生えたもの……。腹のどっばりに気をつけましょう。

NGUYEN—VAN—THANH(化4)

農大に居られるベトナムの人で一番カッコイイ人知ってる？ タンさんダノ、本当にカッコよい人でした。又、

あの甘いささやきで何人の女性をものにしたことでしょうか。

小林 正秀(畜4)

コート内の一寸の狂いもない大工仕事はほとんど先輩の手によるものです。ありがとうございました。でも進路がチョットと狂ったかな？ そして気前の良さは売り物。コンピュータの正確さで、ポレーは、おまかせ安心ヨ。女子コーチ、ホントに御苦労様でした。

手塚 徳文(拓4)

一升ビンまくらに子守唄、つまびくギターで男を唄う、ひたむき純情男酒……。ラケットと一升ビンがとてもよく似合う先輩でした。モクモクと走るランニング姿がとても印象的です。社会に出られてもモクモクと生きてください。

深 沢 保生(経4)

スマッシュ一発仕留人。テニス仲間に、奴だけにはロブを上げるなど、口をそろえて言わせた彼は勝負師でした。サアノ、マッチポイントダ。いくぞ、イクゾ、サービスエースかスマッシュエースか？

藤田 理(化4)

寝ても起きてても白衣姿。『藤田さん知らないか？』グラウンドで野球やっています』と、先輩を捜すのに苦労はしませんでした。そしてやさしさは庭球部随一。僕たち後輩によく甘えたものでした。

古川 定道(拓4)

一見オールジャパンの風格で、見せるテニスの豪快さ。男意気だヨ、ガッツだぜ。ニューカムが先輩の口ひげか？ ちまたでは古川さんのうわさでもちきりでした。又麻雀講座を開いてくれた人でもありました。学連御苦労様でした。

右田 基司(経4)

上げて拾って又上げて相手の足を吊らせてはニヒルに笑う男影。本当にあげてよかったワ。この言葉の通り、スマッシュとボレーが決まらないと焦り狂った人は大勢。あぐくの果てはケイレン。数々のKO勝ちの中でも東大戦のあのすばらしい試合は忘れることができません。

峰 村 和枝(栄4)

静かで落ちついていて、頼り甲斐があつてetc……。ついお母さんと呼びたくなる様な先輩でした。いつも江間

さんと一緒に練習をして静かにコートを去ってゆく姿は忘れられません。

江間 順子(化4)

八等身でヤナギゴシ、私も打てます拾えます。女の意地のカワイラシサ。ついにテニス部員の中から先輩の心をもにすることはだれも出来ませんでした。サウスポーからくり出されるフォアアは見ごとでした。テニス部の〇〇さん知ってる？ ウン、知ってる知ってる。他の学生からも注目の的でした。

### 昭和四十九年

部長 檜垣宮都 監督 宇野晃 助監督 石川清武

男子主将 嘉年坂幸雄(工3) 副主将 吉田新助(農

3) 主務 三五淳一(造3) 副主務 藤本康彦(経

3) 涉外主務 高木隆雄(造3) 副涉外主務 吉田新

助(農3) 幹事 江崎一成(工3) 副幹事 岩田全且

(醸3) 会計 稲石芳亘(林3) 副会計 岩田全且

(醸3) 学連 村石慶二(農2) 女子主将 清水洋子

(拓3) 主務 高橋玲子(化3) 副主務 加藤知子

(化2) 会計 北岡治美(短栄2)

関東学生トーナメント本大会には、単で小林、山田、深沢が、複で山田・小林組、高木・近藤組が出場し、高木・近藤組は二回戦で早大の田村・待鳥組に敗れた。

夏合宿は、山中湖畔の岳麓山荘で行なつたが殆ど雨にたたられ、室内でのトレーニングが多かつた。

秋の理工系リーグ戦は、男子が二勝一敗、女子が一勝二敗で、そのほか対抗戦はあまり振わなかつた。

五十年一月、富士マラソンで嘉年坂は三連勝を達成して、ついにジंकスは破られた。これを記念に田中前監督が約束の特別賞を授与した。

一月十八日、卒業生送別会を下北沢駅前「太郎」で盛大に開催した。

四強といわれた山田、小林、右田、深沢らが卒業したので選手層がうすくなった。

春合宿を埼玉県の坂戸グリーン・テニスクラブで行ない、四月一日からのリーグ戦を迎えた。第一、第二週とも零敗し、第三週の大東大戦で二ポイントを取つただけで最下位となり、入替戦でも東京教育大学に二対八で敗れ、ついに四部に転落した。

女子は二勝三敗で四部にとどまつた。

尚この一年間の主な試合のスコアは次の通り

### 理工系リーグ戦

四十九年十一月四日

関東理工科系庭球リーグ第一部第三戦

対武蔵工業大学 於農大コート

ダブルス

農大1—2 武工大

No. 1 ○嘉年坂・三五(6—1 6—4) 田口・広江

No. 2 江崎・渡辺(5—7 4—6) 斉藤・岡○

No. 3 稲石 瀬尾(6—4 6—8 1—6) 多芸 渡部○

シングルス

農大5—1 武工大

No. 1 ○小林(6—0 6—0) 芹沢

No. 2 ○深沢(6—4 6—0) 多芸

No. 3 山田(2—6 2—6) 渡部○

No. 4 ○三五(6—1 6—4) 斉藤

No. 5 ○嘉年坂(3—6 6—3 6—2) 広江

No. 6 ○稲石 (6-1 6-3) 岡

二勝一敗であったがポイント差にて第一部優勝が決定した。

四十九年十一月四日

関東理工科系庭球リーグ第一部第二週 (女子)

対東京農工大学

ダブルス

農大1-1東農工大

No. 1 清水 (4-6 6-3 1-6) 内山  
中島 里村○

No. 2 ○高橋・角田 (6-2 6-0) 中川・渡部

シングルス

農大1-2農工大

No. 1 角田 (7-9 5-7) 里村○

No. 2 高橋 (6-8 6-4 6-8) 中川○

No. 3 ○篠原 (6-2 6-2) 内山

四十九年十二月一日

関東理工科系庭球リーグ第一部第二部入れ替え戦 (女子)

対早稲田大学

ダブルス

農大2-0早大

No. 1 ○清水・角田 (6-0 6-0) 浅原・小林

No. 2 ○中島・小林 (6-4 6-3) 田島・島

シングルス

農大2-1早大

No. 1 ○角田 (6-0 6-1) 田島

No. 2 清水 (4-6 4-6) 島○

No. 3 ○篠原 (6-0 6-0) 浅原

リーグ戦では敗れたが入替戦に圧勝し一部維持

リーグ戦

五十年四月十九・二十日

関東大学庭球リーグ第三部第四部入れ替え戦

対教育大学 於農大コート

ダブルス

農大0-3教育大

No. 1 高木 (2 | 6) 1 | 6 3 | 6) 山田  
近藤 梅林 ○

No. 2 嘉年坂 (3 | 6) 2 | 6 1 | 6) 広田  
三五 山本 ○

No. 3 稻石 (6 | 4) 3 | 5 | 7) 後藤  
渡辺 (3 | 6) 3 | 6) 堀見 ○

シングルズ

農大1-5教育大

No. 1 嘉年坂 (0 | 6) 1 | 6 1 | 6) 山田 ○

No. 2 近藤 (0 | 6) 0 | 6 2 | 6) 梅林 ○

No. 3 高木 (1 | 6) 2 | 6 0 | 6) 広田 ○

No. 4 三五 (3 | 6) 2 | 6 3 | 6) 山本 ○

No. 5 篠原 (6 | 8) 2 | 6 2 | 6) 後藤 ○

No. 6 ○ 稻石 (6 | 3) 6 | 4 6 | 1) 山川

○勝三敗で入れ替え戦に敗れ男子は四部になった。

五十年三月三十日

関東大学庭球リーグ第四部第三戦 (女子)

対埼玉大学 於農大コート

ダブルズ

農大2-0埼大

No. 1 ○ 清水・角田 (7 | 5) 6 | 4) 志受・平沢

No. 2 ○ 中島 篠原 (4 | 6) 7 | 5 8 | 6) 杉山  
内藤

シングルズ

農大3-2埼大

No. 1 ○ 角田 (6 | 0) 6 | 3) 江畑

No. 2 清水 (1 | 6) 6 | 4 3 | 6) 志受 ○

No. 3 ○ 篠原 (6 | 3) 6 | 2) 杉山

No. 4 中島 (6 | 0) 3 | 6 3 | 6) 内藤 ○

No. 5 ○ 高橋 (8 | 6) 4 | 6 6 | 1) 平沢

二勝三敗で四部維持

主な個人戦々績 (四十九年)

○関東学生庭球トーナメント

単出場者 小林、山田、深沢

複一回戦 山田 小林 (1 | 12 | 4 | 6) 相場 (中央大) ○  
(6 | 10 | 6)

○高木 山脇 (茂木) (成城大)  
近藤 (6 | 3 | 6 | 3) (3 | 6 | 3)

二回戦 高木 (0-6) 田村 (早大)  
近藤 (0-6) 待鳥 (早大)

○全日本学生庭球選手権大会予選

七月十二日

複山田・小林組出場

○関東学生庭球選手権大会

単小林、複高木・近藤組出場

○第八回関東学生新進庭球選手権大会

十月十七日

複六回戦 ○高木

近藤 (6-2 | 6-3) 山口 (法大)  
渡辺

七回戦 高木 (3-6) 清水 (日大) ○  
近藤 (4-6) 中村

前幹部のプロフィール

高木 隆雄 (造4)

ある人に言わせると、マストロヤンニのやさしさ、と  
ジェームスコーバンの強さと、ブロンソンの野生と、ア

ランドロンの男前。他人に言わせると、アートネーチャ  
ーの宣伝用具

稲石 芳 亘 (林4)

学校の先生と異名を持って、あの無表情の顔にかかっ  
た黒縁のメガネ。つなぎとしこりとの一ポイント四〇分  
の試合、あのリーグ戦は忘れません。

江崎 一成 (工4)

テニスよりは、酒なら任せとけ！九州人とは思えぬ  
坊ちゃんタイプ。心やさしかばい人たい！

嘉年坂 幸 雄 (工4)

長距離にかけては、陸上部の服部選手の次。富士マラ  
ソン三年連続の王者、これからも足にかけて、卒業と就  
職を取って下さい。

藤本 康彦 (経4)

歌を唄えば裕次郎、ストロークは「ド」ドライブ、ア  
ルバイトは神様で、女に関してはノーコメント。

岩田 全 且 (醸4)

君が代で知りあの日の丸をもう一度。心やさしいお兄

さん。

吉田新助(農4)

おーいテニスやるノ！ おーいマージャンやるノ！「今日日は」と一日のスケジュールが、その時の気分で成立。よしガンバルゾという意気込み、毎日毎日がスツキリした九州男児ノ！

三五淳一(造4)

江戸ッ子だってね、世田谷の生まれよ。シャキシャキした気前で打つテニス、シャキッと飛んでいくボール。スツキリしているノ！

清水洋子(拓4)

「コラー」と、コート全面に聞こえた、あの気合、はりさける大声は、男まさりノ！

下宿に帰ってみせる女らしさノ！ 気前のよさはバツグンのゴッド姉ちゃんノ！

高橋玲子(化4)

小さな体で、でっかいテニス。コートの広さも関係なし。フアイトマンで、これからもガンバツテ下さい。

篠原陽子(短栄2)

通称チビなのに、大きなロブ、試合は全部大きなロブ。対抗戦で見せるあのスゴイ足、でっかい気合い、現役諸君、負けるなノ！

中島道子(短農2)

テニスを見てみると、小さな蝶々が、コートで踊っている様で、はっと美しさを見せます。

見合い写真は、テニススタイルでノ！

## 昭和五十年

リーグ戦終了後、幹部が交代し次の通り決定した。

男子主将 篠原宏明(工3) 主務 近藤治(農3)

副主務 渡辺宏行(工2) 渉外主務 小林衛(拓3)

副渉外主務 山崎博繁(醸2) 会計 西久保良隆(工3)

幹事 村石慶二(農3) 学連 富樫秀一(林2) 女子

主将 中島道子(短農2) 副主将 角田絵実(化2)

主務 遠藤奈穂子(化2) 会計 塩嶋英子(拓2)

合宿は、夏休みの関係で九月八日から山中湖「東照館」で行なわれた。

秋の理工系リーグ戦は、男女共一部で優勝した。





埼玉坂戸のレギュラー合宿（坂戸グリーンテニスクラブ）昭.51.3

五十一年の始まりは、先ず富士マラソンである。過去三年連続優勝の嘉年坂は、果して四連覇なるか、それとも誰がそれを阻止するか発走前は予想の話でもちきりであった。結果は二年生の渡辺、庭山が一位、二位になった。富士マラソンのレースの裏話は二八四ページに近藤治がおもしろく書いている。

春合宿を、昨年同様、埼玉県の坂戸グリーンテニスクラブで行った。

男子第四部リーグ戦は、五校を相手に対戦した。三月二十三日の対神奈川大学に八対一で大勝し、幸先よいスタートになった。続く成城大学、上智大学、一橋大学にも勝って、全勝同志で順天堂大学と対戦した。四年前、三部昇格を果した思い出のコートに乗り込んだが、同じ全勝同志でも内容的に差があったようで、結果は二対七で敗れたが、既に二対六と勝負がついてNo.1の主将篠原がコートに入った。篠原は強打せず、粘りに粘った。相手がスマッシュすると高々とロブをあげる。打ってくる「ソレコイ」と言って拾いまくった。第一セットは落したがその後盛り返し第二セットを取ったファイナル

になつて押せ押せムードになつたが薄暗くなつて相手選手は試合を放棄した。この時の根性は、農大庭球部の精神をそのまま現わしたようで、そこには何の言葉もいらない、ただあの姿を見ただけで充分であつた。それは、主将としての責任と団体戦の重要性をものがたる無言の教えであつた。その後順天堂大学は入替戦で成蹊大学を破り三部に昇格した。

一方、女子第四部リーグ戦は、五戦していずれも敗け日本体育大学との入替戦になつた。

新一年生岩垂郁子はよくがんばり、少ない女子部員は団結の力で三ポイントずつを取りNo.1同志の決戦となつた。こゝで主将角田絵実が登場し、簡単に第一セットを取つた。ほとんどのものが農大の勝ちを予想した。しかし第二セットからは、日体大が押し気味でファイナルになると主導権を握られてしまい、ついに逆転負けを喫し五部降格が決定した。あのかやし涙は、リーグ戦という大会の重さを感じさせるものであり、来年必勝を誓つた。

## リーグ戦

五十一年三月三十日

関東大学庭球リーグ第四部第二戦

対成城大学 於東大コート

ダブルス

農大 2—1 成城大

No. 1 篠原 (1—6 8—6 2—6) 瀬川  
甲斐

No. 2 近藤・渡辺 (6—4 6—3) 河合(裕)・斉藤

No. 3 小林・庭山 (6—4 6—3) 鹿島・永野

シングルス

農大 3—3 成城大

No. 1 甲斐 (6—4 6—3) 瀬川

No. 2 篠原 (6—4 6—8 2—6) 茂木

No. 3 近藤 (6—1 6—4) 河合(由)

No. 4 渡辺 (6—0 9—7) 河合(裕)

No. 5 小林 (0—6 6—2 4—6) 永野

No. 6 庭山 (4—6 7—9) 鹿島

成城第一位瀬川はインカレだったが三年生甲斐が二

日ばかりでねばり勝つ。

五十一年四月一日

関東大学庭球リーグ第三部第三戦

対上智大学 於農大コート

ダブルス

農大2-1上智大

No. 1 篠原・甲斐 (4-6) 3-6 近藤・名田○

No. 2 小林庭山 (6-1) 2-6 7-5 大亀門司

No. 3 近藤渡辺 (5-7) 6-0 6-4 田中坂

シングルス

農大4-2上智大

No. 1 篠原 (6-4) 4-6 8-6 近藤

No. 2 甲斐 (2-6) 3-6 田中○

No. 3 近藤 (3-6) 6-3 6-2 門司

No. 4 渡辺 (6-2) 6-0 坂

No. 5 庭山 (6-4) 2-6 3-6 大亀○

No. 6 小林 (6-0) 6-2 名田

五十一年四月十一日

関東大学庭球リーグ第四部第五戦

対順天堂大学 於順天大コート

ダブルス

農大0-3順天堂大

No. 1 近藤・渡辺 (0-6) 4-6 牟田・倉島○

No. 2 篠原・甲斐 (2-6) 1-6 中島・山中○

No. 3 小林庭山 (4-6) 7-5 4-6 小田切内○

シングルス

農大2-4順天堂大

No. 1 甲斐 (1-6) 2-6 倉島○

No. 2 篠原 (3-6) 10-8 DEF 牟田

No. 3 渡辺 (2-6) 2-6 竹内○

No. 4 近藤 (3-6) 6-3 6-2 小田切

No. 5 小林 (6-2) 3-6 2-6 山中○

No. 6 庭山 (1-6) 3-6 中島○

四戦全勝同士のあらそいだったが力の差はいかんともしがたく主将篠原が壮絶な試合で勝ったが及ばず四

部二位に終わる。

五十一年四月八日

関東大学庭球リーグ第四部第五戦(女子)

対昭和女子大学 於農大コート

ダブルス

農大1—1昭和女大

No.1 塩嶋・遠藤(0—6 3—6) 長島・笠原○

No.2 角田(6—4 6—8 7—5) 鈴木  
三隅

シングルス

農大2—3昭和女大

No.1 遠藤(6—2 6—0) 宮沢

No.2 角田(6—0 6—1) 鈴木

No.3 塩嶋(0—6 2—6) 笠原○

No.4 岩垂(0—6 1—6) 三隅○

No.5 小林(2—6 0—6) 長嶋○

五十一年四月十八日

関東大学庭球リーグ第四部第五部入れ替え戦(女子)

対日本体育大学 於農大コート

ダブルス

農大1—1日体大

No.1 塩嶋・岩垂(0—6 1—6) 杉山・加藤○

No.2 角田(6—4 4—6 10—8) 伊地知  
井口

シングルス

農大2—3日体大

No.1 遠藤(1—6 4—6) 井口○

No.2 角田(6—1 4—6 3—6) 加藤○

No.3 塩嶋(6—2 3—6 6—2) 平尾

No.4 小林(1—6 6—3 6—2) 伊地知

No.5 岩垂(3—6 1—6) 杉山○

単で全敗だった塩嶋が勝ち全勝だったエース角田が  
破れ残念ながら五部へ落ちる。

## 前幹部のプロフィール

篠原 宏明(工4)

関東学生キラーと言われた農大のガッチャマン、女性恐怖症を直してくれる女の子募集中！ 卒業しても足りないような適度の運動をしましょう。

近藤 治(農4)

一年の時からレギュラーでコート整備の鬼と言われた時もありました。豪快なテニスとはうらはらに細かな神経の持ち主なのです。やっとなり来た春！ 今この時をせいといっぱい生きていきましょう。

西久保 良隆(工4)

先輩と話して笑わなかった人は世界に一人もいません。農大のサミーデビスジュニア、農大のエンターティナーと唱えられた、それは西久保さん…… 絵になる男！

村石 慶二(農4)

ある時は学連、またある時は金貸し、またまたある時は、ギャンプラー…… そして後輩のよき相談役でもあ

りました。アツ鳥だ！ ロケットだ！ そうです村石さんなのです。

## 昭和五十一年

リーグ戦終了後、幹部が交代し次のように決定した。

尚檜垣庭球部長はアメリカへ留学のため、飯島助手が部長代理を一年間努めた。

部長代理 飯島倫明 監督 宇野晃 助監督 石川清

武 男子主将 甲斐敬基(林3) 副主将兼幹事 庭山

裕(農3) 主務 渡辺宏行(工3) 副主務 富樫秀一

(林3) 渉外主務 山崎博繁(醸3) 副渉外主務 小

野隆寿(林3) 会計 堀江一郎(林3) 学連 金井建

(経2) 女子主将 角田絵実(化3) 副主将 小林あ

ゆみ(化3) 主務 遠藤奈穂子(化3) 会計 塩嶋英

子(拓3)

六月二十日、恒例の青山学院大学と定期戦を行なったが、三対六で敗れた。

関東学生の個人戦は、男子単に甲斐、複に渡辺・庭山組が女子単に角田、複に角田・加藤(日体大)組がそれぞれ出場した。

理工系の個人戦は次の成績をおさめた。

男子単 準優勝 近藤 治(農4) 男子複優勝渡辺  
(宏)・庭山組(工3農3) 女子単優勝角田絵実(化3)  
第三位小林あゆみ(化3) 岩垂郁子(短栄1) 女子複  
優勝角田・小林組

夏合宿は山中湖畔東照館で行ない。秋のシーズンに備えた。

理工系リーグ戦は、男子が一部で東京理科大学を六対三、慶応大学工学部を九対〇、成蹊大学工学部を九対〇で破り、一方女子も東京農工大学を五対〇、東京理科大学を四対一、北里大学を五対〇で破って男女共の優勝を果した。

このほか、来春リーグ戦で対戦が予想される何校かと対抗戦を行なった。

五十二年の富士マラソンは、一月九日午前十時スタートし、男子は三年生の渡辺宏行が、女子は一年生の岩垂が優勝した。渡辺は昨年に次いで二連勝である。

春のシーズンは、学年末試験の終わったその日から始まった。先ずコート掘り起しから開始、補修用の費用が

少ないため、コート掘りの隅に大きな穴を深く掘り、赤土(関東ローム)を掘り上げ、それを買って来た荒木田と混ぜて使った。寒風の吹く中で焚火をしながら周囲の柵や扉、通路を修理するのもこの時期の重要な作業であった。

春合宿を、男子が静岡県草薙総合運動場で、女子は坂戸グリーン・テニスクラブでそれぞれ行ない、リーグ戦にのぞんだ。

男子第四部第一戦は、強敵専修大学と対戦し、三対六で敗れ、その後第二戦から第五戦までいずれも四対五で敗れ、どうしても五ポイント目がとれず、ついに最下位になった。

絶体絶命で迎えた四部、五部入替戦は、明治学院大学と対戦した。複が二対一で続く単は二対三と共に四ポイントずつでNo.1にすべてがかかった。No.1は、期待にこたえ、堂々と農大に勝利をもたらした。そのNo.1の重責を果たしたのは、四年生の「ジョン」こと小野隆寿であった。小野はそれまではあまり試合に出場した事がなかったが学生生活最後の試合で大きな花を咲かせた。それに

しても、こゝ一番でよく踏んばり四部にとどまった底力は農大の伝統のおかげと言えよう。苦しみ続け、悩み続けたこのリーグ戦、五ポイント目がどうしてもとれず、最終試合でようやく一勝したその一勝の価値は昇格した時と同じ位の重みを感じたものだった。

一方、女子は、昨年の雪辱を合言葉にこの日のために一年間練習に練習を重ねた。実験実習が多いので早朝練習をしてまでリーグ戦にかけた。その成果があつて、一次リーグを殆んどシャットアウトの五戦全勝し、二次リーグに進んだ。これも順調に勝ち進んだが第三戦の対京都宮大学戦で三対四で遂に敗れ、決勝リーグ進出はならなかった。女子は加盟校が多いため、日程もかなりきついで中を九戦して八勝一敗の成績を残した。

尚この一年間の主な試合のスコアは次の通り。

**定期戦**

五十一年六月二十日 定期戦

対青山学院大学 於農大コート

ダブルス

農大1—2 青学大

- No. 1 富樫・南 (0—6 1—6) 清坂・武藤○
- No. 2 甲斐・堀江 (3—6 3—6) 伊藤・上野○
- No. 3 ○渡辺・田辺 (8—6 7—5) 増田・堤

シングルス

農大2—4 青学大

- No. 1 甲斐 (1—6 0—6) 伊藤○
- No. 2 南 (1—6 2—6) 上野○
- No. 3 富樫 (2—6 2—6) 増田○
- No. 4 ○渡辺 (7—5 6—3) 浅野
- No. 5 ○堀江 (3—6 11—9 7—5) 西垣
- No. 6 田辺 (2—6 5—7) 堤○

**理工系リーグ戦**

五十一年十月三十一日

関東理工系庭球リーグ戦(男子) 第一部第一週

対東京理科大学 於農大コート

ダブルス

農大1—2 東理大

No. 1 渡辺・庭山 (1—6 3—6) 堀谷・佐生○

- No. 2 ○堀江 (4-6 6-2 7-5) 林加藤  
 No. 3 甲斐・田辺 (4-6 3-6) 河原・木村○

シングルス

農大5-1東理大

- No. 1 ○近藤 (6-0 6-0) 渡部  
 No. 2 ○甲斐 (6-0 6-3) 林  
 No. 3 堀江 (11-9 0-6 2-6) 堀谷○  
 No. 4 ○庭山 (6-3 6-1) 佐生  
 No. 5 ○渡辺 (6-2 6-2) 河原  
 No. 6 ○篠原 (6-4 6-4) 木村  
 三戦全勝で一部優勝

五十一年十一月二十三日

関東理工系庭球リーグ戦(女子)第一部第三週

対北里大学 於白金コート

ダブルス

農大2-0北里大

- No. 1 ○角田・小林 (6-1 6-3) 桐竹・滝沢

- No. 2 ○遠藤・岩垂 (7-5 6-4) 菊地・吉永

シングルス

農大3-0北里大

- No. 1 ○岩垂 (6-3 6-2) 滝沢  
 No. 2 ○角田 (6-0 6-2) 蔵本  
 No. 3 ○小林 (7-5 6-4) 桐竹

リーグ戦

五十二年四月十八日

関東大学庭球リーグ第四部第五部入れ替え戦

対明治学院大学 於農大コート

ダブルス

農大2-1明学大

- No. 1 ○渡辺 (3-6 6-2 6-2) 大山飯島  
 No. 2 ○甲斐 (6-4 3-6 6-4) 上原浅間  
 No. 3 山崎・小野 (1-6 4-6) 波川・亀井○

シングルス

農大3-3明学大



No. 1 小野 (6-1 6-3) 森田

No. 2 庭山 (6-0 6-1) 浅間

No. 3 渡辺 (7-5 6-2) 亀井

No. 4 堀江 (1-6 4-6) 渋川

No. 5 富樫 (4-6 6-8) 飯島

No. 6 甲斐 (10-12 6-3 3-6) 大山

渡辺、庭山が単で全勝したものの三対六が一試合四対五が四試合ともう一步及ばなかったが小野が貴重な五本目のポイントを取り四部にとどまる。

五十二年三月二十五日

関東大学庭球リーグ一次リーグ女子

対埼玉大学 於農大コート

ダブルス

農大2-0 埼玉大

No. 1 角田・小林 (6-0 6-0) 藤沼・黒須

No. 2 遠藤・岩垂 (4-6 6-3 6-2) 篠原・関根

シングルス

農大2-3 埼玉大

No. 1 遠藤 (0-6 2-6) 黒須

No. 2 飯田 (6-4 7-9 4-6) 吉田

No. 3 角田 (6-1 6-1) 関根

No. 4 小林 (6-1 0-6 6-1) 篠原

No. 5 岩垂 (2-6 6-2 5-7) 藤沼

五戦全勝で二次リーグへ

五十二年四月十二日

関東大学庭球リーグ第五部二次リーグ第三戦

対宇都宮大学 於農大コート

ダブルス

農大1-1 宇都宮大

No. 1 角田・小林 (6-0 6-1) 田中・津久井

No. 2 遠藤・岩垂 (1-6 1-6) 大出・寺川

シングルス

農大2-3 宇都宮大

No. 1 遠藤 (1-6 4-6) 田中

No. 2 飯田 (1-6 0-6) 寺川

No. 3 ○角田 (6-1 6-0) 大出

No. 4 ○小林 (6-1 6-2) 海老原

No. 5 岩垂 (6-2 5-7 4-6) 森本○

主な個人戦々績(五十一年)

○関東学生庭球トーナメント

出場者 単甲斐 複渡辺(宏)・庭山組

女子単角田

女子複一回戦○角田 (6-6 6-2) 桜井 (明学大)  
加藤 佐々木

二回戦 角田 (4-6 2-6) 小林 (日女体大) ○  
加藤 五十嵐

角田のパートナー加藤選手はリーグ戦で敗れた

日体大の選手

第十回関東学生新進庭球選手権大会

女子単六回戦○角田 (7-0 6-5) 藤田 (日女体大)

七回戦 角田 (6-3 6-4) 布施 (成城大) ○  
8-6

女子複六回戦○角田 (6-4 6-0) 小比木 (東女体大)  
加藤 塚

七回戦

角田 (3-6 5-7) 藤本 (成城大) ○  
6-1 1-1 7-1 布施

○関東理工系大学庭球大会

男子単近藤準優勝、男子複渡辺(宏)・庭山組優勝

女子単角田優勝、女子複角田・小林組優勝

前幹部のプロフィール

小林 衛 (拓4)

一年間の派米実習で今年めでたく卒業。

「なにやってんネン」アメリカでも関西弁を流行させ、  
テニスでも農大健児の意気をみせてきました。

甲斐 敬基 (林4)

新進一六おめでとうございます。

いつもマイペースの試合運びには誰もがまきこまれて  
しまう。甲斐さんと当たった人は二度と芽が出ないでし  
よう。

小野 隆 寿 (林4)

三度の飯よりも酒が好きな人、ピースをくわえて酒の

んで!!

「健康のため吸いすぎ、飲みすぎに注意しましょう。」

富樫 秀一(林4)

テニス部きつての甘党、しかしテニスでは甘さを捨てて頑張りました。あの落ちついた試合態度、堅実なテニスは忘れられないでしょう。

庭山 裕(農4)

テニスのセンスもさることながら絵の方もなかなかのもの、大病のため一時は頭の毛が全くなくなりみんな心配しましたが今は元氣そのもの。

堀江 一郎(林4)

何事も努力してみるのですネ、全く飲めなかった酒が今ではフォールボール缶をあけられるほどになりました。

山崎 博繁(醸4)

両手打ちによって開眼し、それ以来すばらしい快進撃!! 今後もそのいきおいで頑張って下さい。

渡辺 宏行(工4)

理工系の覇者!!

アクロバットテニスは誰にもまねすることはできません。すばやい身のこなしは動物的!!

角田 絵実(化4)

左のフォアから打ち出されるボールはなかなかのもの、ラケットがタレルのが少し気にかかりますが。

遠藤 奈穂子(化4)

福島のナマリはなかなかぬけませんね、あの独特のしゃべり方には誰も対抗できませんでした。

小林 あゆみ(化4)

ある時は「がりさん」ある時は「おかあさん」の愛称でみんなから親しまれた人、めんどろみのいいおかあさんお元気で!!

岩崎 章(短農2)

常にマイペースのテニスをし、二年の夏に大望の関東学生をとったガッツマン!! 打って打って打ちまくるそれが彼のテニスなのです。

岩垂 郁子(短農2)

一年の時のか弱さはどこへやら、リーグ戦を戦い、二

年たった今は大きく成長したようです。体は小さくても心は大きく!!

小山京子(短栄2)

「米子」「麦子」でテニスをし、「麦子」は信州へ、「米子」はこれからどこへ行くのでしょうか。

## 昭和五十二年

リーグ戦終了後、役員、幹部が交代し、次の通り決定した。尚、監督の宇野晃に代って助監督の石川清武が新たに監督に就任し、更にコーチ制度が復活し、O・B会は松田晃を推薦した。

部長 檜垣宮都 監督 石川清武 助監督 滝島浩二  
 コーチ 松田晃 サブコーチ 望月一宜 阿武高志 男子  
 主将兼幹事 田辺肇(拓3) 副主将兼主務 金井建(経3) 副主務 南俊一(畜2) 渉外主務兼会計  
 原田定雄(工3) 副渉外主務 岩崎章(短農2) 学連  
 沢田潔(拓2) 女子 主将 岩垂郁子(短栄2) 主務  
 兼会計 小川京子(短栄2)

関東学生トーナメントに男子単で渡辺(宏)、複で渡

辺(宏)・庭山組が、女子単で角田、複で角田・小林組が出場した。女子単の角田は三回戦で成城大学の中野淳子選手と対戦し、三―六、二―六で敗れ、又、全日本学生選手権大会予選女子単に角田が出場した。

関東学生選手権大会男子単に二年生の岩崎が出場複に渡辺・庭山組が、女子単に岩垂が出場した。

理工系の個人戦で男子単渡辺(宏)が複で渡辺・庭山組が女子単で岩垂(短栄2)がそれぞれ優勝した。

又、関東学生新進戦で甲斐は八回戦まで進出しベスト16位に入った。

夏合宿は山中湖の東照館で行ない秋のシーズンにそなえた。

理工系リーグ戦は、十月二十三日から開始した。男子は武蔵工業大学に七対二、成蹊大学七対二、東京理科大学に八対一で勝ったが、第二戦の対成蹊大学戦でオーダーミスをしたため、全勝しながら二部に降格となった。女子は、東邦大学、東京理科大学、北里大学にそれぞれ勝って一部で連続優勝した。

このほか、来春リーグ戦で対戦するところと対抗戦を

行なったがあまりふるわなかった。

これより先、O・B会は、青山学院のO・Bチームと青山のコートで対戦した。卒業年次を大別し、戦前卒を二ポイント、二十年代卒を二ポイント、三十年代を二ポイント、四十年以降卒を五ポイントの計十一試合で行なわれた。四十年以降の若い卒業生の対戦は全くの互角で二勝二敗三引分であった。更に二十年以前の大先輩同志の対戦は二勝零敗で現役時代を思わせる活躍を示した。試合のあと、青学会館で懇親会を開催し、今後毎年九月十五日にO・B戦を開き再会を約束した。この時の戦績は四勝四敗三引分であった。

五十三年一月の富士マラソンは男子は三年生の原田定雄が、女子は一年生の飯田早苗が優勝した。

卒業生送別会は、渋谷「獅子林」で行なわれ、十四名の卒業生を送り出した。

春季合宿は、男子は神奈川県相模湖畔、藤野グリーン・グラウンドで、女子は坂戸グリーンテニス・クラブでそれぞれ行ないリーグ戦を迎えた。

今年から連盟の規約変更に伴い、一部から六部まで、

すべて六校ずつになったため、自動的に三部に繰り上げとなった。

男子新三部リーグ戦は、五戦全敗し、入替戦も東海大学に○対九で敗れ、せつかくの繰り上げも一年で四部に落ちる結果となった。

女子は三勝二敗で一次リーグ三位にとどまった。尚、この一年間の主試合のスコアは次の通り。

#### 理工系リーグ戦

五十二年十月二十三日

関東理工系庭球リーグ戦第一部第一週

対武蔵工業大学 於農大コート

ダブルス

農大 3 | 0 武蔵工大

No. 1 ○ 渡辺 (8 | 10) 6 | 4 6 | 4 金子  
庭山

No. 2 ○ 甲斐・堀江 (6 | 0) 6 | 0 高瀬・池田

No. 3 ○ 田辺・南 (6 | 3) 6 | 4 相原・大日方

シングルス

農大 4 | 2 武工大

- No. 1 ○渡辺 (6 | 0) 池田
- No. 2 鶉家 (2 | 6) 6 | 8) 関原 ○
- No. 3 南 (3 | 6) 1 | 6) 金子 ○
- No. 4 ○庭山 (8 | 6) 6 | 2) 大日方
- No. 5 ○田辺 (6 | 3) 6 | 3) 相原
- No. 6 ○甲斐 (6 | 2) 6 | 4) 高瀬

五十二年十月三十日

関東理工系リーグ戦第二週女子

対東京理科大学

ダブルス

農大 2 | 0 東理大

- No. 1 ○岩垂・飯田 (6 | 1) 6 | 2) 城戸・土屋
- No. 2 ○新貝・船橋 (7 | 5) 6 | 3) 椎名・岩崎

シングルス

農大 3 | 0 東理大

- No. 1 ○岩垂 (6 | 0) 6 | 2) 田中
- No. 2 ○新貝 (6 | 0) 6 | 2) 土屋
- No. 3 ○飯田 (6 | 0) 6 | 3) 城戸

三戦全勝で優勝

リーグ戦

五十三年四月二十三日

関東大学庭球リーグ第三部、第四部入れ替え戦

対東海大学 於農大コート

ダブルス

単農大 0 | 3 東海大

- No. 1 荒川・田辺 (2 | 6) 1 | 6) 猪又・田家 ○
- No. 2 茂木・鶉家 (0 | 6) 0 | 6) 荒井・吾妻 ○
- No. 3 南・原田 (3 | 6) 2 | 6) 安野・嶋村 ○

シングルス

農大 0 | 6 東海大

- No. 1 山崎 (6 | 8) 4 | 6) 田家 ○
- No. 2 秋山 (2 | 6) 1 | 6) 吾妻 ○
- No. 3 茂木 (4 | 6) 4 | 6) 荒井 ○
- No. 4 田辺 (4 | 6) 4 | 6) 猪又 ○
- No. 5 南 (4 | 6) 4 | 6) 小川 ○
- No. 6 原田 (0 | 6) 1 | 6) 佐藤 ○

東海大に齒が立たず残念ながら四部降格

五十三年三月十五日

関東大学庭球リーグ第五部第二戦

対青山学院女子短期大学 於農大コート

ダブルス

農大 2-0 青学短大

No. 1 ○新貝・飯田 (6-2 6-2) 光永・上田

No. 2 ○林・船橋 (6-2 6-0) 藤井・須加崎

シングルス

農大 3-2 青学短大

No. 1 樋野 (3-6 6-2 0-6) 富田(憩)○

No. 2 ○飯田 (7-5 5-7 6-0) 岡部

No. 3 船橋 (6-1 6-1) 富田

No. 4 新貝 (6-0 4-6 5-7) 高橋○

No. 5 ○林 (6-0 6-0) 山本

主な個人戦々績(五十二年)

○関東学生庭球トーナメント

男子単 渡辺(宏) 複、渡辺(宏)・庭山組出場

女子単二回戦○角田 (6-2 6-2) 深水(成蹊大)

三回戦 角田 (2-3 3-6) 中野(成城大)○

女子複、角田・小林組出場

○全日本学生庭球選手権大会予選(七月七、八日)

女子単、角田出場

○関東学生庭球選手権大会

男子単、岩崎、複、渡辺・庭山組出場

女子単、岩垂出場

○関東理工科系大学庭球トーナメント大会

男子単決勝○渡辺 (6-7 7-5) 楠原(北里大)

// 複決勝○庭山 (6-4 4-7 1-6 5) 山田(北里大)

女子複決勝○角田 (6-6 6-2) 桐竹(北里大)

○第十一関東学生新進庭球選手権大会

男子単七回戦○甲斐 (6-6 6-1 4-3 6) 中野(青学大)

八回戦 甲斐 (1—6) 山田 (明大) ○  
(ベスト16位)

### 前幹部のプロフィール

田 辺 肇 (拓4)

浅黒い顔にメガネが光る農大一のネットプレーヤー。サウスポーから繰り出されるボレー、スマッシュは華麗そのもの。老けて見られるのが玉にきず。

原 田 定 雄 (工4)

いつも冷静沈着、一人何役もこなす我等の兄貴。コートに入れば弾丸スマッシュを有するポイントゲッター。酒で酔っぱらった後輩達をやさしく介抱して下さった姿は今も忘れません。

金 井 建 (経4)

どんな時でも笑顔でせまり心の安らぎを与えてくれました。得意のフォアとロブで相手を惑わすテニスは今も後輩の悩みの種です。

吉 村 誠 (短農2)

ある時栃木の暴れん坊、ある時流れのキャンブラー、ある日突然派米実習生に早変わり。口でするテニスアメリカでも広めてくるでしょう。帰国後の英語力が楽しみです。

飯 田 早 苗 (短栄2)

農大でその名も響く露出狂？ 両手打ちのバックが一際光る。オシリの出っぱりを気にしながらもよく頑張ってくれました。

船 橋 紀 美 (短栄2)

テニス部きつての色白で変わったフォームの多い女子の中できれいなテニスを見せてくれました。お酒は楽しく飲みましょう。

### 昭和五十三年

リーグ戦終了後、幹部交代が行なわれ、次の通り決定した。

男子主将 南俊一 (畜3) 副主将兼主務 鵜家一誠

(醸3) 副主務 青木秀樹 (醸2) 渉外主務 森山弘

一 (経3) 副渉外主務 祖田健一郎 (造2) 会計 沢田



潔(拓3) 副会計 茂木光司(農2) 学連 馬場喜弘  
 (造2) 女子主将 飯田早苗(短栄2) 副主将 樋野  
 礼子(化2) 主務 船橋紀美(短栄2) 副主務 林佐  
 保(農2) 会計 新貝由弥子(畜2)

夏合宿は、はじめて群馬県の尾瀬の近く、最近テニス  
 民宿が増えて来た片品で行なった。

秋の理工系リーグ戦は十月二十二日から開始、男子第  
 二部で二勝一敗で一部昇格はならなかった。女子は一勝  
 二敗で一部の三位に終った。

このほか男女共對抗戦を行ないシーズンを終えた。

尚、O・B会は恒例となった青山学院のO・Bと農大  
 コートで対戦した。部長を含む戦前卒業の二組は断然強  
 く二勝を挙げ、四十年以後の対戦も接戦であったが結局  
 三対五、三引分に終り、そのあと図書館会議室で懇親会  
 を開き旧交を深めた。

庭球部創立七十五周年に当る昭和五十四年の活動は、  
 恒例の富士マラソンで開始した。静岡県御殿場市の国立  
 中央青年の家には、我がグループだけで、集いの広場で  
 「青山ひとり」を披露した。夜は、二十歳を迎えた部員

のお祝いに余興をして楽しんだ。翌日は、生憎の雨降り  
 だったが、十時の時報と共に正門をスタートし、雨の中  
 を男子十五キロメートル、女子十キロメートルを全員完  
 走した。男子はがんばり屋沢田が幹部の意地を見せ優勝  
 し、女子は樋野が一位になった。このレースで途中まで  
 断然トップだった祖田は道を間違えたのは残念であった。

春合宿は、男子レギュラーは静岡県草薙総合運動場で、  
 準レギュラーは農大コートで、女子は坂戸グリーン・テ  
 ニスクラブでそれぞれ行い、リーグ戦にのぞんだ。

男子第四部は、三月二十一日から始まり、五戦全勝し  
 て第一位となり、三部の第六位になった明治学院大学と  
 の入替戦を行い六対三でこれも撃破し、三部に返り咲い  
 た。しかし、昨年から一部六校制になっているので、七  
 年前の三部とは実質的にちがいがあ。ちなみに現在の  
 位置はリーグ戦を終えた時点で関東学生連盟の加盟校九  
 十三校のうち十七位という事になる。

一方、女子は、予選リーグで五勝二敗となったため、  
 決勝リーグには進出できなかった。女子の加盟校は一一  
 九校で一部から四部までが各六校でその他の加盟校が五

部に九十五校ひしめいている現状で、早く上部校へあがれるよう、毎日練習に励んでいる。

尚、この一年間の主な試合のスコアは次の通り

### リーグ戦

五十四年三月二十一日

関東大学庭球リーグ戦第四部第一戦

対東洋大学 於東洋大コート

ダブルス

農大2—1東洋大

No. 1 鷗家・茂木 (3—6 7—9) 長谷川・細淵○

No. 2 ○山崎 坂内 (6—4 3—6 6—4) 大畑 五十右

No. 3 ○南・秋山 (6—4 6—1) 村松・山口

シングルス

農大4—2東洋大

No. 1 ○南 (6—0 6—3) 下山

No. 2 ○山崎 (6—1 6—2) 大畑

No. 3 齊藤 (3—6 6—8) 細淵○

No. 4 ○秋山 (6—3 6—4) 五十右

No. 5 坂内 (3—6 4—6) 長谷川○

No. 6 ○茂木 (6—2 8—6) 村松

茂木は昨秋の理工系でも同じ村松と当りファイナルセットの未敗れたが今回はよくねばり圧勝した。

五十四年三月二十六日

関東大学庭球リーグ戦第四部第二戦

対群馬大学 於農大コート

ダブルス

農大3—0群大

No. 1 ○鷗家・茂木 (6—2 6—1) 内山・橋本

No. 2 ○山崎・坂内 (6—1 6—1) 金子・小倉

No. 3 ○南・秋山 (6—3 6—3) 高橋 柴崎

シングルス

農大4—2群大

No. 1 ○南 (6—3 6—0) 小倉

No. 2 ○山崎 (6—1 6—4) 橋本

No. 3 ○秋山 (6—3 6—3) 内山

No. 4 ○茂木 (6—3 6—3) 金子

No. 5 鶉家 (3-6) 高橋○  
 No. 6 坂内 (3-6) 3-6 柴崎○  
 群大は実力一位柴崎二位高橋だったので鶉家・坂内  
 が敗れたがあとは楽勝

五十四年三月三十一日

関東大学庭球リーグ第四部第三戦

対埼玉大学 於農大コート

ダブルス

農大1-2 埼玉大

No. 1 茂木 坂内 (6-2) 1-6 3-6 渋谷○

No. 2 南・秋山 (7-5) 6-1 岡田・村田

No. 3 鶉家・山崎 (2-6) 0-6 上田・福士○

シングルス

農大4-2 埼玉大

No. 1 南 (6-1) 6-3 茂木

No. 2 山崎 (2-6) 5-7 福士○

No. 3 秋山 (6-1) 6-3 高谷

No. 4 茂木 (3-6) 7-5 6-4 上田  
 No. 5 坂内 (6-4) 10-12 6-4 村田  
 No. 6 鶉家 (6-3) 2-6 2-6 渋谷○  
 復のオーダーがはずれNo.1で実力二位同士の対戦に  
 なって敗けたが単で今迄勝ってなかった坂内とナンバ  
 ーワンに当たった茂木の気力とねばりで勝てたのが勝因

五十四年四月五日

関東大学庭球リーグ第四部第四戦

対日本体育大学 於農大コート

ダブルス

農大2-1 日本体大

No. 1 南・秋山 (6-4) 6-3 名和・斉藤

No. 2 茂木・坂内 (6-3) 6-2 川島・諸方

No. 3 鶉家・山崎 (3-6) 1-6 岡田・保手浜○

シングルス

農大5-1 日本体大

No. 1 南 (6-3) 6-4 斉藤

No. 2 山口 (4-6) 1-6 岡田○

- №3 ○山崎 (6―1) 川島  
 №4 ○秋山 (6―0) 大田原  
 №5 ○茂木 (6―4) 保手浜  
 №6 ○坂内 (6―2) 名和

日体大の斉藤・岡田は関東学生。新入生の山口が初めて試合に出てよく善戦した。

五十四年四月十日

関東大学庭球リーグ第四部第五戦

対成城大学 於成城大学コート

ダブルス

農大2―1成城大

- №1 荒川 (4―6) 7―5 1―6) 高津○  
 出井 小林○

№2 ○茂木・坂内 (6―2) 6―2) 坂本・寺田

№3 ○南・秋山 (6―2) 6―1) 広川・井本

シングルス

農大4―2成城大

- №1 南 (3―6) 1―6) 高津○

№2 ○山口 (6―0) 6―2) 坂本

№3 ○山崎 (6―1) 6―1) 尾沢

№4 ○秋山 (6―4) 6―3) 小林

№5 坂内 (2―6) 4―6) 寺田○

№6 ○茂木 (6―1) 6―3) 広川

成城大高津はこの直後インカレになった程のプレーヤーだったので単複共№1は善戦であった。以上の結果五戦全勝で四部優勝となり二位の埼玉大と共に入替戦(三部六位校)に出場決定。

五十四年四月十五日

関東大学庭球リーグ第三部、第四部入れ替え戦

対明治学院大学 於明治学院大学コート

ダブルス

農大2―1明学大

- №1 荒川 (5―7) 2―6) 上原(信)○  
 出井 近野

№2 ○南・秋山 (6―2) 6―4) 大藪・上原(昭)

№3 ○茂木・坂内 (6―0) 6―0) 佐藤・岡田

シングルス

農大4—2明学大

No.1 〇南 (6—0 6—0) 佐藤

No.2 山崎 (6—2 2—6 0—6) 上原(信)〇

No.3 〇山口 (6—3 6—3) 遠藤

No.4 〇秋山 (5—7 9—7 6—1) 大藪

No.5 鶉家 (4—6 7—5 7—9) 近野〇

No.6 〇茂木 (6—2 6—2) 上原(昭)

単No.4 秋山がセカンド四—五の〇—四〇のマッチポイントから、勇躍サービスタッシュ三本連続決め奇跡的な大逆転となり農大の勝利を不動のものにした。以上の結果第三部五位(埼玉大も勝ったので六位)となつた。

五十四年三月二十三日

関東大学庭球リーグ戦第五部第七戦女子

対帝京大学 於農大コート

ダブルス

農大2—0帝京大

No.1 〇新貝・樋野 (6—0 6—0) 高田・原田  
No.2 〇林・松坂 (6—3 6—2) 今井・小林  
シングルス

農大4—1帝京大

No.1 〇松坂 (6—2 6—3) 小林

No.2 〇新貝 (6—0 6—1) 奥海

No.3 榊原 (6—0 4—6 3—6) 今井〇

No.4 〇樋野 (6—1 6—1) 井上

No.5 〇林 (6—1 6—0) 高田

以上の結果七戦五勝二敗となり二次リーグ進出ならず四部昇格なりませんでした。

主な個人戦々績(五十三年)

〇関東学生庭球トーナメント

単南出場

昭和五十四年

リーグ戦終了後、幹部交代が行なわれ次の通り決定した。

部長 檜垣宮都 監督 石川清武 助監督 松田晃

コーチ 望月一宜 阿武高志 山田龍彦 男子主将 秋  
 山悦男(工3) 主務 青木秀樹(醸3) 渉外主務 斉  
 藤和利(造3) 会計 田中典久(醸3) 学連 馬場喜  
 弘(造3) 女子主将 樋野礼子(化3) 主務 林佐保  
 (農3) 会計 新貝由弥子(畜3)

三部昇格を果し、意気あがるわが部は、四年生に代つて新戦力の一年生の山口を加えた新しいメンバーで対抗戦と定期戦にのぞんだ。

对上智大学戦は六対三、対成蹊大学戦は八対一、対静岡大学戦は六対三と撃破したが対青山学院大学との定期戦には三対一〇で敗れた。

又、関東学生選手権大会の単には南、秋山、茂木と一年生の山口が、複には秋山・茂木組、坂内・山口組が出場した。

秋のシーズンの前に九月四日から農大コートで強化練習を行ない、八日から山中湖の「東照館」で合宿練習をして各試合に臨むことになり、そしていよいよ十一月にはわが庭球部の創立七十五周年を迎える。

尚、この間の主な試合のスコアは次の通りである。

### 対抗戦

对上智大学対抗戦 五十四年六月三日

農大 上智大

ダブルス

No. 1 〇秋山・茂木(6-3 6-4) 新井・南雲

No. 2 坂内・荒川(2-6 4-6) 有木・池尻〇

No. 3 〇出井・山口(6-0 6-4) 中田・佐藤

シングル

No. 1 秋山(3-6 4-6) 新井〇

No. 2 〇茂木(6-0 4-6 6-1) 南雲

No. 3 〇山口(6-3 10-8) 有木

No. 4 〇坂内(6-1 6-4) 五十嵐

No. 5 〇山崎(6-0 6-1) 中田

No. 6 出井(1-6 4-6) 佐藤〇

対成蹊大学対抗戦 五十四年六月一日

ダブルス

No. 1 〇秋山・茂木(6-3 6-4) 新・斉藤

No. 2 〇坂内・荒川 (8-6 6-0) 久保・牧  
 No. 3 出井 (3-6 6-2) 4-6 吉沢  
 山口 福士〇

シングルス

No. 1 〇秋山 (6-1 4-6 6-3) 新  
 No. 2 〇茂木 (6-1 6-2) 齊藤  
 No. 3 〇山口 (6-4 6-1) 久保  
 No. 4 〇坂内 (6-4 6-3) 吉沢  
 No. 5 〇山崎 (6-1 6-3) 福士  
 No. 6 〇祖田 (6-1 6-3) 亀川

对青山学院大学定期戦 五十四年六月十七日

農大3-10青学大

ダブルス

No. 1 秋山 (7-6 3-6 2-6) 中野  
 茂木 小林〇  
 No. 2 坂内・荒川 (3-6 4-6) 津田・門司  
 No. 3 山崎・山口 (3-6 2-6) 畑・野中  
 No. 4 出井 (4-6 6-4 3-6) 佐藤  
 齊藤 福島〇

シングルス

No. 1 〇秋山 (6-2 6-4) 門司  
 No. 2 茂木 (1-6 4-6) 津田〇  
 No. 3 山口 (1-6 6-7) 畑〇  
 No. 4 〇山崎 (6-1 6-4) 野中  
 No. 5 〇坂内 (6-4 6-1) 佐藤  
 No. 6 祖田 (2-6 3-6) 小菅〇  
 No. 7 出井 (7-6 6-7) 4-6 福島〇  
 No. 8 荒川 (3-6 6-2) 1-6 目黒〇  
 No. 9 齊藤 (3-6 6-7) 雪〇

对静岡大学对抗戦 五十四年六月二十三日

農大6-3静大

ダブルス

No. 1 〇秋山 (6-7 7-5 7-5) 山本  
 茂木 松井  
 No. 2 坂内・荒川 (4-6 5-7) 入江・小倉〇  
 No. 3 〇山崎 (6-3 4-6 6-2) 塩谷  
 山口 原山  
 シングルス

No. 1	秋山	(6   1)	0   6	2   6	山本○
No. 2	茂木	(6   1)	6   4		松井
No. 3	山口	(2   6)	7   5	6   2	入江
No. 4	坂内	(6   3)	2   6	6   1	塩谷
No. 5	山崎	(6   0)	6   1		数村
No. 6	祖田	(6   4)	0   6	3   6	小倉○

主な個人戦々績 (五十四年)

○関東学生庭球トーナメント 四月一日〜四月十日

男子単出場者 南、秋山、茂木。

○関東学生庭球選手権大会

男子単出場者 南、秋山、山口 (二年)

一回戦 ○茂木 (6 | 6 | 2 | 6) 柳井 (筑波大) (6 | 1 | 2 | 6)

二回戦 茂木 (3 | 3 | 6 | 6) 右近 (日大) ○

複出場者 秋山・茂木組、坂内・山口組。